チュチェ思想50問答

朝鮮社会科学者協会

2016

目　次

問１：チュチェ思想の特徴は何か

答:先行した各思想と根本的に区別されるチュチェ思想の特徴は、一言で言って人間中心の哲学思想である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は人間中心の新しい哲学思想です」

チュチェ思想が人間中心の哲学思想であるというのは、人間を中心に据えて哲学の根本問題を新たに提起し人間を中心に世界にたいする見解と観点、立場を解明した哲学思想であることを意味する。

これまで人類の哲学思想史には多くの哲学潮流があった。しかしそれらはみな「神」のような神秘的な存在や精神を基本にした観念論的世界観とか物質本位の唯物論的世界観であった。もちろん、従来の哲学思想の中には人間を前面に押し立てることを標榜したそれぞれの類型の「人間哲学」があった。しかし、それらは人間とは何であり、人生とは何かについて論ずる人生哲学に過ぎなかった。

チュチェ思想はまず世界と人間との関係問題、世界における人間の地位と役割の問題を哲学の根本問題として新たに提起し人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという根本原理を解明する。

人間が世界でどのような地位を占め、どんな役割をするかという問題は単なる人間問題ではなく、人間を哲学的考察の中心に据えて提起した世界観的問題である。したがってそれに解答を与えた原理は人間中心の世界観的原理となり、同時に人間の運命開拓の原理となる。

チュチェ思想はまた人間を中心に据えて世界は人間によって支配され改造されるということ、世界は人間の主動的な作用と役割によって発展し人間に奉仕する方向にそして人間の発展によって発展するという世界にたいする新たな見解を解明する。そして世界にたいする主体的な見解にもとづいて人間の利益から出発し人間の活動を基本にして世界にたいしなければな

らないという新たな観点と立場を解明する。

このように人間を中心に哲学の根本問題を新たに提起し人間を基本にして世界にたいする見解と観点、立場を解明するというところに従来のすべての哲学思潮と根本的に区別されるチュチェ思想の根本特徴がある。

チュチェ思想は人間中心の哲学思想であるがために徹底した革命哲学、政治哲学となる。

チュチェ思想は革命実践の要求を反映して困難な闘争の中で創始され、革命実践で提起される思想理論的問題に解答を与える過程を通じて発展豊富化された思想として、革命闘争の前途をもっとも正確に解明する威力ある思想精神的武器である。

チュチェ思想は人民大衆があらゆるものの主人であり、すべてを決定する存在であるという観点と立場から出発して人民大衆の要求と志向を反映し大衆の闘争経験を一般化して定立され深化発展された思想である。それゆえ、チュチェ思想は人民大衆の自主的要求と志向に全的に符合する絶対的な真理として人民大衆の誰もが理解し闘争の武器にする。

まさにここにチュチェ思想を徹底した革命哲学であるという理由がある。

チュチェ思想は革命哲学であるだけでなく、政治の原理的基礎を解明する政治哲学である。

人民大衆の運命は社会の発展を通じて開拓され社会の発展は政治によって導かれる。それゆえ科学的な政治の原理的基礎を解明する哲学思想のみが人民大衆の運命開拓に真に寄与できる。

チュチェ思想が解明する人間中心の哲学的世界観と社会歴史観の諸原理、革命観の原理はもっとも科学的な世界観的原理だけでなく、社会の発展を正しい道へと導く政治の原理的基礎である。まさにこういう意味でチュチェ思想を指して政治哲学という。

人間中心の哲学思想だけでなく、徹底した革命哲学、政治哲学であるというところに哲学思想としてのチュチェ思想の特徴がある。

問 2：チュチェ思想はどのような時代的要求を反映して生まれた思想であるか

答:チュチェ思想は先行したすべての時代と根本的に区別される新たな歴史的時代、チュチェ時代の要求を反映して生まれた思想である。

金日成主席は次のように述べている。

「現代は、かつて抑圧され、しいたげられてきた人民が世界の主人として登場し、自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく自主性の時代です」

数千年にわたる敵対階級社会の全期間、勤労人民大衆は極少数の支配階級、搾取階級に主人としての地位を奪われあらゆる無権利と搾取を強いられてきた。

しかし 20 世紀の初頭、ロシアで社会主義 10 月革命が勝利し、ヨーロッパ資本主義諸国で資本の支配に反対する労働者階級の革命闘争が急激に高揚した。そしてかつて帝国主義の植民地的搾取と抑圧のもとでうめいていた数多くのアジア諸国人民も植民地民族解放闘争に力強く立ち上がっていた。

当時、国際舞台で起こっていたこれらすべての激動的な出来事は、過去歴史の対象とのみ見なされていた人民大衆の地位と役割において根本的な転換が起こっていたことを示している。まさにこのような時代が歴史の新しい時代、チュチェ時代である。

歴史の新しい時代、チュチェ時代は以前の時代とは異なり、歴史の主人として登場した広範な人民大衆が自己の運命を自らの手中に掌握し、自主的に、創造的に切り開いていくことを切実に要求した。

新しい時代の革命実践のこの要求を実現することは、歴史発展の特殊性と革命の複雑さ、困難さからして朝鮮において特別に重要な問題として提起された。

かつて朝鮮では腐敗無能な朝鮮封建王朝支配層によって事大主義が助長され、派閥争いがひどくなった結果、国が滅びるようになった。それにも

かかわらず、1920 年代に事大主義と派閥争いの悪習を踏襲した民族主義者たちとえせマルクス主義者たちは、自分の力で革命を行おうとはせず、外部勢力に依拠して独立を達成しようと妄想していた。当時共産主義運動を行うとしていた人々は、それぞれ党派を作ってコミンテルンの承認を受けようとかけ回り、植民地半封建社会であった朝鮮の歴史的条件と具体的現実から離れて既成理論と他国の経験を機械的に模倣しようとした。このように事大主義と教条主義がひどく作用したため、革命の前途が切り開かれることができなかった。

チュチェ時代を切り開いた朝鮮革命は、強大な日本帝国主義を対象として反帝民族解放革命の課題と反封建民主主義革命の課題をともに遂行すべき困難で複雑な革命であったし、前人未到の道を開いていくべき厳しい革命であった。

このような事情は朝鮮人民をして自らの独自的な信念と判断に基づいて革命の道を選択し、自分の力に依拠して自主的に、創造的に革命の前途を切り開いていくことを切実に要求した。

まさにこのようなときに、10 代の若年にして金日成主席は、到来した新しい時代の要求を誰よりも先に明哲に見抜き、それをもっとも正しく反映した新たな革命思想、チュチェ思想を創始した。

チュチェ思想は歴史の新しい時代、チュチェ時代の要求を正確に反映して創始されたことにより、人民大衆が自己の運命を自主的に、創造的に切り開いていくようにするもっとも科学的な革命思想となった。

問３：チュチェ思想の思想精神的源泉は何か

答:チュチェ思想の思想精神的源泉は「志遠」の思想である。

チュチェ思想の思想精神的源泉は、金日成主席の尊父であり、朝鮮の反日民族解放運動の卓越した指導者であった金亨稷先生の「志遠」の思想である。

「志遠」とは志を遠大に持たなければならないという言葉である。

「志遠」の思想は、国をとり戻すための朝鮮人民の困難な闘争の歴史的教訓から生まれた革命的かつ愛国的な思想である。それは自国、自民族、自国民にたいする熱烈な愛と人民大衆の力にたいする絶対的な信頼をもって、国の独立をあくまでも自力で達成すべきであるという、透徹した自主精神を込めている。

金日成主席は、金亨稷先生の「志遠」の思想がこめている熱烈な愛国、愛族、愛民の精神と気高い民衆重視思想、自力独立の思想をもっとも貴重な思想精神的滋養分として受け入れ、革命の途に身を投じ、人民大衆のなかに入って革命の新しい道を模索していった。

その過程に主席は革命の主人は人民大衆であり、そのなかに入って彼らを教育し組織、動員してこそ革命で勝利し、革命は誰かの承認や指示によってではなく、自らの信念にもとづいて自分が責任をもって遂行すべきであり、革命と建設におけるすべての問題を自主的に、創造的に解決すべきであるという、チュチェ思想の二つの起点を発見した。

それゆえ、主席はチュチェ 72（1983）年 6 月末から 7 月初頭にかけて朝鮮を訪問したペルー・アメリカ人民革命同盟代表団を接見した席で、ご自身は朝鮮の民族主義運動と初期共産主義運動の実態を批判的に見、自国人民の力に依拠して戦わなければならないことと自分の問題は自分が責任をもって解決すべきであるということをつくづくと感じたといいながら、わたしがこのような思想をもつようになったのには、お父さんの革命的影響も大き

かったと意味深く回顧した。

「志遠」の思想はこのように、チュチェ思想が革命の主人は人民大衆であり、革命と建設を推し進める力も人民大衆にあるという原理にもとづいた人民大衆の革命思想、各国の革命の主人はその国の人民であり、各国の革命を推し進める力もその国の人民にあるという原理にもとづく自主的な革命思想として創始するようにした源泉となった。

問４：チュチェの哲学的世界観とは何であるか

答:チュチェの哲学的世界観とは、人間を中心に据えて明らかにした世界にたいする見解、観点と立場を意味する。

チュチェの哲学的世界観はまず、人間を中心にして明らかにした世界にたいする見解を重要な内容としている。

チュチェの哲学的世界観は人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという根本原理にもとづいて、世界は人間によって支配され改造されるということ、世界は人間の主動的な作用と役割によって人間に奉仕する方向に、そして人間の発展によって発展するということを明らかにしている。

次に、チュチェの哲学的世界観は人間を中心に世界にたいする観点と立場を重要な内容としている。

チュチェの哲学的世界観は、人間が世界の支配者、改造者であるため、人間の利益から出発して世界にたいし、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応すべきであるということを明らかにしている。

歴史にはさまざまな類型の世界観があったが、人間を中心にして世界にたいする見解、観点と立場を解明したものはなかった。世界が観念や精神からなっているとみなした観念論はいうまでもなく、世界が物質から成り立っているとした唯物論も人間を中心にして世界にたいする見解、観点と立場を解明できなかった。

従来のすべての哲学的世界観とは異なり、世界における人間の地位と役割の問題を哲学の根本問題として新たに提起し、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという根本原理にもとづいて展開され体系化された、人間中心の哲学的世界観であるということに、チュチェの哲学的世界観の特徴がある。

問５：チュチェ思想が新しく提起した哲学の根本問題は何であるのか

答:チュチェ思想が提起した哲学の根本問題は、世界における人間の地位と役割の問題、世界と人間の関係問題である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は、世界の始原にかんする問題が唯物論的に解明された前提に立って、世界における人間の地位と役割にかんする問題を哲学の根本問題として新たに提起し、世界の主人が誰であるかという問題に解答を与えました」

一般的に哲学の根本問題とは、世界観を確立するうえで解決すべき多くの問題のなかで、優先的に解決すべきもっとも基礎的かつ出発的な問題である。

哲学でいかなる問題を根本問題として提起し、それをどのように解決するかによって、哲学の根本原理とそれにもとづく哲学の全般体系と内容が変わってくる。

チュチェ思想が新たに提起した哲学の根本問題は二つの側面をもっている。その一つは、世界における人間の地位に関する問題であり、もう一つは世界の改造発展における人間の役割の問題である。

この根本問題は人間が世界を支配するか、さもないと世界の支配を受けるかという問題であり、人間が世界を改造し発展させるうえでどのような役割を果たすかという問題として、人間を基本にして提起した哲学の根本問題となる。

チュチェ思想が新たに提起した哲学の根本問題は、何よりも哲学の本性と根本使命に全的に合致する問題である。

哲学は世界観を与えることにより、人間の運命開拓に寄与するのを根本使命にする。

チュチェ思想が新たに提起した哲学の根本問題は、単なる人間問題では

なく、世界と人間の関係問題であるため、この問題は人間の運命開拓の道を直接的に解明する世界観を与えるように設定された問題である。

世界と人間の関係問題、世界における人間の地位と役割の問題を明らかにすると、そこから世界が人間によって支配され改造されるという、世界にたいする人間中心の見解と、人間が世界を支配し改造するうえで依拠すべき観点と立場を解明し、ひいては人間の運命開拓の正確な方途を解明することができる。

チュチェ思想が新たに提起した哲学の根本問題は次に、人類の世界観発展の合法則的要求を正しく具現している問題である。

大昔、人々は世界を征服し自己の運命を開拓する実践闘争を通じて、神秘的な幻想から漸次脱するようになった。ところが、ここで優先的に提起されたのは周囲世界を正しく認識することであった。それは世界にたいする理解を抜きにしては自己の運命についても知ることができず、また開拓もできなかったからである。

こういうことから哲学的世界観発展の初期から人々は、世界にたいする正しい認識をもつためにその始原が何であるかという問題、物質が優先か、意識が優先かという問題を哲学の根本問題にするようになった。世界がその始原において何であるかというこの問題は世界が物質から成り立っており、絶えず変化発展するということを明らかにしたマルクス主義唯物弁証法的世界観によって科学的に解明された。しかし、これは決して世界観発展の終着点ではなかった。世界が何で成り立ち、どのように変化発展するかというのが科学的に解明された後には、世界との関係のなかで人間がいかに世界を支配し改造していくかを正しく解明するのが重要な問題として提起される。この問題は世界と人間との関係問題、世界における人間の地位と役割の問題を哲学の根本問題として提起し正しく解決してこそ、はじめて実現される。

まさにチュチェ思想は、世界観発展の合法則的要求を具現し世界における人間の地位と役割の問題を哲学の根本問題として提起することにより、哲

学の根本問題を新たに革新した。

　チュチェ思想が新しく提起した哲学の根本問題は次に、われわれの時代、チュチェ時代の要求を正しく反映している問題である。

　自主性をめざす人民の闘争が以前の時期とは比べようもなく、幅広く多様に展開されているわれわれの時代、チュチェ時代は人民大衆をして自己の運命の主人であるという高い自覚をもち、自己の運命を自主的に、創造的に開拓できる世界観を求めた。このような世界観を確立するうえで、当然提起され解明されるべき問題がほかならぬ世界における人間の地位と役割が何であるかという問題であった。

　チュチェ思想は自主時代のこのような要求を反映して、世界における人間の地位と役割の問題を哲学の根本問題として新しく提起し解決することにより、哲学発展の新たな起点をととのえた。

問６：チュチェ思想の哲学的原理は何であるか

答:チュチェ思想の哲学的原理は人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は人間を本位にして哲学の根本問題を提起し、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという哲学的原理を明らかにしました」

チュチェ思想は人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという原理にもとづいて全般体系と内容が展開されている。それゆえ、この原理をチュチェ思想の根本原理あるいは基礎原理であるという。

人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の哲学的原理は、世界と人間との相互関係問題について二つの側面から明らかにしている。

チュチェ思想の哲学的原理はまず、人間があらゆるものの主人であるということを明らかにしている。

人間があらゆるものの主人であるというのは、人間が世界と自己の運命の主人であるということである。これは世界の主人、自己の運命の主人としての人間の地位を解明したものである。

人間は世界に束縛して生きるのではなく、自己の自主的要求と意思に即して世界を支配しながら生きていく存在である。

世界には多種多様の物質的存在があるが、世界を支配しながら生きる存在は一つもない。密林の「帝王」という獅子も、また海の「猛主」というサメも、周囲世界を支配しながら生きる存在ではない。獅子がいくら他の動物を自分勝手に取り食って生きるといっても、それはあくまでも与えられた環境に順応しながら生きていく存在であって、周囲世界を支配する存在ではない。世界を支配しながら生きていく存在は唯一人間だけである。

世界の主人としての人間の地位は歴史を通じて絶えず高まる。人間は世代に世代を継いで絶えず行われる闘争を通して世界を支配していく。

人間が世界の主人であるというのはすなわち、人間が自己の運命の主人であるということである。人間が世界の主人であるがゆえに、周囲世界が人間の運命の主人にはなり得ない。人間の運命の主人はひたすら人間自身である。

また、チュチェ思想の哲学的原理は人間がすべてを決定するということを明らかにしている。

人間がすべてを決定するというのは、人間が世界を改造し自己の運命を切り開いていく上で決定的な役割を果たすということである。これは世界の改造発展における人間の役割を明らかにしたことである。

人間が世界を改造し、変革していくためには物質的・技術的手段をはじめ、さまざまな要因が作用するようになる。しかし世界の改造変革に物質的・技術的手段をはじめ、さまざまな要因がいかに作用するかということは人間によって左右される。

今日、科学技術が発展してコンピューターが生産工程を自動操縦し、またロボットが自動車の組み立てをしている。しかしこれはあくまでも人間の指令、プログラムがあってこそ、可能になるのである。

最先端技術手段も人間の役割を代替できず、世界の改造において決定的役割をするのはどこまでも人間である。

人間は世界を改造し変革する歴史的過程を通じて自分の力と知恵を育み、周囲世界をより高い水準で絶えず改造し発展させていく。

人間が世界の改造発展において決定的な役割を果たすというのは、すなわち自己の運命を開拓する上で決定的役割を果たすということである。人間の運命は世界を改造し変革していく過程を通じて開拓され、世界の改造発展において人間が決定的役割を果たすため、世界には人間の運命を決定するいかなる存在もあり得ない。人間の運命は人間がいかに積極的に世界を改造し変革していくかによって左右される。

　このように人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の哲学的原理は、人間が生きている世界を正しく反映し人間の運命問題に正しい解答を与えるもっとも科学的で革命的な原理である。

問７：人間をなぜ社会的存在であるというのか

答:人間を社会的存在であるというのは、人間が社会的関係を結び社会的集団をなして生き、活動する存在であるからである。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間が社会的存在であるというのは、社会的関係を結んで生きる存在だという意味であって、自然的存在と区別するために使う言葉です」

人間は他の自然的、生物学的存在とは異なり、社会をなして生きる。人間のすべての生活と活動は一定の社会的関係にもとづいて結合された社会的集団の中でのみおこなわれる。

もちろん、動物の中にも一定の秩序によって群れをなして生活し、共同で巣をつくり、餌を探しもとめるような行動をするものがいる。しかし、動物の群れ生活と社会的関係を結び、社会的集団をなして生きる人間の生存方式の間には乗り越えられない限界、質的差異がある。

資料によれば、サルや黒しょうじょう（チンパンジー）は生まれた後、自分たちの群れと離れて生きても自己の種の独特の音声や歩き方などをそのまま受け継ぐようになるという。これは動物個体の生存方式や特徴が群れの関係を通じて規定されるのではなく、生まれつきの本能によって規定されるということを示唆している。

ところが、人間の場合にはまったく事情が違う。いくら優れた素質をもって生まれた人間であるとしても仮に、社会的関係とかけ離れて育つならば、たとえ肉体的には成長しても言語や思考活動はもとより、人間に特有な直立歩行さえもまともにできなくなる。結局、人間は生まれただけでは固有な意味での人間であるといえず、ひとえ社会の中で社会的関係を結び社会的集団をなして生きる時にのみ、はじめて人間として生き発展することができる。ここに人間が社会的存在であるという根拠がある。

人間は世界で唯一の社会的存在である。

社会には人間以外にも、社会的財貨や社会的関係のように自然的な事物現象ではないものがある。ところが、社会的財貨や社会的関係はどこまでも社会的存在である人間によってつくられた創造物である。もし、人間によって創造された社会的財貨や社会的関係も社会的存在であるとすれば、結局、人間とそれらとの本質的差が曖昧模糊になる。それゆえ、世界で社会的存在は唯一、社会的関係を結び社会的財貨を創造し享受していく人間のみであると見るべきである。

問８：自主性とは

答: 自主性は世界と自己の運命の主人として自主的に生き発展しようとする社会的人間の属性である。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主性は、世界と自己の運命の主人として自主的に生き発展しようとする社会的人間の属性です」

自主性は社会的存在である人間のもっとも本質的で根本的な属性である。人間は自主性ゆえに、自然の束縛を克服し社会のあらゆる従属に反対しすべてを自分に奉仕させていく。

自主性は何よりも、あらゆる従属と束縛に反対する性質である。

動物は自然の一部分としてそれに全的に従属されている。動物は自然の条件と環境に自分を適応させない時には自らの存在を維持できなくなる。

熱帯地方のサルや象を北極グマの生息している北極地方に移しておけば、一週間も生きられないのである。それはサルや象が北極の寒さに耐えず、北極グマのように魚取りもできないからである。これは周囲環境に従属して生きるのが動物の必須の生存方式であることを示している。

しかし、人間は周囲環境に順応する方法で生きるのではない。また外部世界に従属されるのではなく、あらゆる束縛と従属も許容しない。まさにここに人間の根本属性としての自主性がもっている内容の一つの側面がある。

自主性は次に、世界を自己の意思と要求に即して服従させていく性質である。

人間は世界を支配して生きていく唯一の存在である。人間は動物界からかけ離れて世界を自己の生存と活動の舞台にし、自己の活動能力と力が増大するにつれてそれにたいする支配をもっと拡大していくようになった。

人間の活動過程とは、世界のより多くの事象と領域を自分に服従させ、奉仕させていく過程である。人間の力と能力の増大によって世界を支配して

いく過程はより拡大され促進される。

このように人間はあらゆる従属と束縛を許容しないことにとどまらず、それを支配していくことにより、自主性をもつ存在、自主的な社会的存在となる。

自然と社会、自分自身の主人として生き発展するための人間の活動は自主的要求から出発し、またそれに応じておこなわれるようになる。

人間は世界のなかで生きながら自己の運命を開拓していくため、自主的要求は自然と社会、自分自身の主人として生き発展しようとする要求として表れる。

人間が自主的な要求をもっているということは、自主的な思想意識をもっているということである。自主的な思想意識は自己の運命の主人としての自覚であり、自己の運命を自ら開拓していく意志である。人間は自主的な思想意識をもっているがゆえに、あらゆる束縛に反対しすべてを自分に奉仕していく自主的活動をおこない、自主性を侵し蹂躙する抑圧者に反対して革命的にたたかっていくことができる。

こういう意味で自主性を規定する決定的な要因は、自主的な思想意識であるというのである。

自主性は、人間が人間になるようにする根本属性であり、社会的存在である人間にとって第一の生命となる。

問 9：創造性とは

答:創造性は、目的意識的に世界を改造し自己の運命を開拓していく社会的人間の属性である。

金正日総書記は次のように述べている。

「創造性は、目的意識的に世界を改造し自己の運命を開いていく社会的人間の属性です」

創造性は社会的存在としての人間の本質的属性の一つである。

創造性ゆえに、人間は古いものを変革し新しいものを作り出しながら自然と社会を自分により有益で役に立つものに改変していく。

創造性は何よりも、世界の事象を自己の自主的な志向と要求に合わせて能動的に、目的意識的に改造し変革していく性質である。

もちろん、動物の中にもサルやチンパンジーのように石や棒を利用して獲物を探し出し、またかいりねずみのように倒れ木を持ち運んできては自分の居場所を守るために「ダム」をつくるものもいる。動物のこのような行為はどこまでも本能にもとづいた盲目的な活動に過ぎず、したがって、それは以前も今も変わりがない。しかし人間は環境を利用することにとどまらず、自己の意思と要求に即して能動的に、目的意識的に世界を改造し利用する。

創造性は次に、新しいものをつくりだす性質である。

人間活動のもっとも重要な特徴は、既成のものの部分的な改作や変形にとどまるのではなく、既成の形態ではないまったく新しいものをつくりだすところにある。

新しいものをつくりだす人間の創造的活動によって自然そのものとしては作られない新しい事物、人工的な事物が出現するようになる。そうしてこそ、人間は世界にたいする支配を絶えず拡大していく。

このように人間は能動的に世界の事象を自己の要求に即して改造変革し、新しいものを作りだすことにより、創造性をもつ存在、創造的な社会的

存在となる。

　人間が創造性をもっているというのは、自己の意思と要求に即して自然と社会を改造しうる創造的能力をもっているということである。人間は創造的能力をもっているがゆえに、世界でもっとも強力な存在となり、自然と社会を自分に有益で役に立つものに改造し変革していく創造的活動をおこなうようになる。

　創造的能力は科学技術知識と経験、技能、熟練を重要内容にしている。

　科学技術知識は事象の本質とその運動法則、それを改変する方式と手法を反映した社会的意識である。人間は科学技術知識をもっているがゆえに古いものをなくし、新しいものをつくりだす創造的活動を行うことができる。もちろん、古いものをなくし新しいものをつくりだす人間の創造的活動は経験、技能、熟練と無関係なものではない。しかし経験や技能、熟練は人間の創造的活動において科学知識より決定的な作用はできない。

　こういう意味で人間の創造性を規定する基本要因は科学技術知識であると言い、それはすなわち人間の創造的能力となる。

問 10：意識性とは

答:意識性は、世界と自分自身を把握し改変するためのすべての活動を規制する社会的人間の属性である。

金正日総書記は次のように述べている。

「意識性は、世界と自分自身を把握し改造するすべての活動を規制する社会的人間の属性です」

意識性は自主性、創造性とともに社会的存在としての人間の本質的属性の一つである。

意識性ゆえに、人間は世界とその運動発展の合法則性を把握し自然と社会を自己の要求に即して目的意識的に改造し発展させていく。

意識性は何よりも、世界と自分自身を把握する活動を規制する社会的人間の性質である。

世界と自分自身を把握するのは唯一人間だけである。

動物園やサーカス団に行けばさまざまな腕前を見せる黒しょうじょうの面白い行動を見ることができる。黒しょうじょうは自分の「家」も掃除しほうきで庭も掃いたり、管理人や曲芸士が合図すれば、食膳と器を持ち運び、人間のようにさじで食べ物を食べたりする。また足し算、引き算のような「計算」もよくできる。黒しょうじょうの行動は人間の行動にひとしい。

しかしこのような行動は決して目的意識的なものではない。黒しょうじょうがいくら人間そっくりの行動をするとしてもそれは長い間の訓練を通じて形成された「第２の天性」である習慣、条件反射によって盲目的にする行動に過ぎない。もし、条件反射が形成されなかった黒しょうじょうが前にいるとしたら、そばに食器とさじがあっても利用できないし、またその意味を知らない「計算」もできなくなる。これは人間以外のいかなる生命体も世界と自分自身を把握する活動ができないということを見せている。

もっぱら人間のみが意識性をもっているがゆえに、世界の本質とその運

動法則、自分自身を把握する認識活動ができる。

意識性は次に、世界を改変するすべての活動を規制する社会的人間の性質である。

いくら発達した動物であっても、その活動は本能による生物学的な活動に過ぎない。生物学的な本能としては世界を改造し変革する活動ができない。人間は意識性をもっているがため、世界のすべてを自分の要求に合わせて改造する活動を目的意識的に、能動的に展開していく。

人間が意識性をもっているということは、意識をもっているということである。

意識は人間の肉体的器官の中でもっとも発達した脳髄の高級な機能である。人間は意識をもっているがゆえに一定の志向をもって目的意識的に活動し、客観世界の本質とその合法則性を認識しそれを自分の意思と要求に合わせて改造し発展させていける。

意識は大きく思想意識と知識に区分する。思想意識は人間の要求と利害関係を反映した意識であり、知識は客観的対象の本質と特性、それを人間の要求に合わせて改造する方法を含有した意識である。

思想意識は知識の形成方向を規定し、知識が人間の要求と利益の実現に寄与できるように調節する。思想意識水準が高い人間であるほど、科学知識を所有するために積極的に努力し、それを社会と集団、人民のために積極的に利用するようになる。

問 11：自主性、創造性、意識性は
どのように結ばれているか

答: 人間の本質的特性をなす自主性、創造性、意識性は密接に結ばれており、人間の活動で統一的に発現される。

何よりも自主性と創造性は密接に結ばれている。

まず、自主性は創造性を発揚させる要因であり、創造性は自主性を実現する担保である。

人間は世界と自己の運命の主人として自主的に生き、発展しようとするところから世界を改造し自己の運命を開拓し創造的活動を展開するのである。したがって、自主性が高ければ高いほど、創造性を高く発揚するようになる。人間は世界と自己の運命の主人として生き、発展しようとする志向と要求、自覚と意志が高ければ高いほど、創造的活動をいっそう積極的に展開するようになる。

一方、創造性を発揮してこそ、自主性を実現することができる。

人間は創造性が高ければ高いほど、高い水準の創造的活動を展開し、自主性も高い水準で実現していく。創造性なしにはいかなる自主的要求も実現できない。

次に意識性は、自主性と創造性の前提であり担保である。

世界と自分自身を把握し改造する活動を規定する意識性なしには、世界と自己の運命の主人として生き、発展しようとする人間の自主性も、世界を改造し自己の運命を開拓していく人間の創造性についても考えられない。人間は意識性をもっているがゆえに、自主的要求を押し立て、その実現のための創造的活動をおこなうものである。

人間は意識性が高ければ高いほど、世界と自分自身をより深く把握し世界と自己の運命の主人になるための創造的活動をより高い水準で展開していく。どれほど人間が高い水準の自主性と創造性をもっているか、またそれをいかに高く発揮するかは結局意識性の高さの如何によって左右される。

問 12：自主性、創造性、意識性はどのように形成、発展されるか

答: 自主性、創造性、意識性は社会歴史的に形成され発展される。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主性、創造性、意識性は社会的、歴史的に形成され発展する人間の社会的属性であります」

自主性、創造性、意識性が社会歴史的に形成され発展する人間の属性であるということは、そのような属性が人間の生まれつきのものではないということである。

もちろん、人間は発達した有機体をもっている。しかし、人間の発達した肉体的器官とその特殊な機能は人間が自主性、創造性、意識性をもつようにする自然的及び生物学的基礎とはなるが、そこから直接的に自主性、創造性、意識性が産出されるものではない。

20 世紀 60 年代にインドの密林の中で獣の群れと一緒に育った少年を発見したことがあった。ところが、少年は言葉も通じず、獣の泣き声を出し、直立歩行ができず、獣のように這っていたそうである。言わば、肉体は人間の肉体であるが、行動は獣同然であった。これは人間の本質的特性が決して自然が与えるものではないことを雄弁的に物語っている。

人間の本質的属性はどこまでも人々が社会をなして生き活動する過程に形成され、歴史的に発展してきたものである。

自主性、創造性、意識性はまず、人間が社会をなして生きながらもつようになる属性である。

自主性、創造性、意識性は人間が社会的関係を結び、社会的集団をなして生き活動する過程に形成されたものである。人間は社会をなして生き活動することにより、本能によって盲目的に動く単なる生物学的存在ではなく、自主性、創造性、意識性のような社会的属性をもって自然と社会を目的意識

的に改造する特出した存在となり、生物学的にではなく、社会的に発展する新たな段階に入るようになった。これは人間が社会をなして生きることにより、自然界から脱して社会的属性をもつようになり、はじめて人間になったことを示唆している。

自主性、創造性、意識性はまた、社会的な教育と実践を通じて形成され発展する属性である。

教育は人々の自主性、創造性、意識性を形成発展させる重要な社会的空間である。人間は家庭教育、学校教育、社会教育などの教育を通じて、人類がなし遂げた先進思想と科学技術知識を体得し発展させるようになる。そして、人間は社会的実践過程を通じて自主的な思想意識を身につけて強固にし、教育を通じて摂取した科学技術知識を検証しそれを豊富にしていく。

人間の自主性、創造性、意識性はこのように社会的関係を結んで生き、活動する過程に、特に社会的な教育と実践を通じて形成され発展する社会的属性である。

問 13：世界にたいする主体的見解は何か

答: 世界にたいする主体的見解は世界が人間によって支配され改造されるということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「世界が人間によって支配され改造されるというのは、人間との関係において明らかにした世界にたいする新しい見解です」

世界が人間によって支配され改造されるというのは一言でいって、自然と社会が人間の自主的かつ創造的な活動によって、人間のための世界になるということである。

何よりも自然は、人間によって支配され改造される。

人間の生存と発展に大きな被害を与えていた自然の事象が、人間の創造的な認識活動と実践活動によって人間に奉仕する物質的条件となり、また人間に直接的に奉仕しなかった自然の事象が人間の生産手段と生活資料として利用される事実は、自然が人間によって支配され改造されるということをはっきり示している。

次に、自然だけでなく社会も人間によって支配され改造される。

人類史を顧みると人間の自主性を蹂躙する社会制度が、人々の積極的な闘争によって人間の自主性の実現を保障する社会制度として変わってきた。特に労働者階級をはじめ、広範な勤労人民大衆は搾取制度を一掃して社会主義制度を樹立したことにより、国家主権と生産手段の主人となって自己の意思と要求に即していっそう目的意識的に社会を発展させていくようになった。

世界が人間によって支配されるというのは、人間が広大な世界を現実的に全部支配していることを意味するものではない。世界にはまだ人々が実質的に支配できずにいる領域が数多くある。しかし、人間の自主性、創造性、意識性の発展水準の向上に伴って、人間が支配する世界の領域は絶えず広がるようになる。

世界が人間によって改造されるというのは、世界のすべての変化が人間によってなされるということを意味するものではない。

世界のすべての事象はみな自らの特性を持っており、一定の合法則性によって変化発展する。人々はこのような合法則性を正しく認識し、利用することにより、自己の要求に即して世界を改造していける。

結局、世界が人間によって改造されるというのは、世界のすべての運動変化が人間によってなされるというのではなく、世界の改造発展において人間が決定的な役割を果たすということである。

問 14：人間による世界の支配と改造発展の合法則性は何であるか

答:人間による世界の支配と改造発展の合法則性は、世界が人間の能動的な作用と役割によって発展し、人間に奉仕する方向へと、そして人間の発展に伴って発展するということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は、物質世界発展の最高の産物である人間による世界の支配と、その改造発展の原理を独創的に定義づけることによって、世界観の基礎を新たに解明しました」

チュチェ思想が明らかにした人間による世界の支配と改造発展の合法則性は何よりも、世界が人間の能動的な作用と役割によって発展するということである。

世界が人間の能動的な作用と役割によって発展するというのは、人間による世界の支配と改造発展の基本要因を解明する合法則性である。

世界の支配と改造発展が人間の能動的な作用と役割によってなされるというのは、それが人間の自主的で創造的で意識的な活動によってなされるということである。世界にたいする人間の能動的な作用と役割は、世界を支配し改造するための積極的で能動的な活動過程であり、それは本質において自主的で創造的で意識的な活動である。自主的で創造的で意識的な活動を通じて人間は、世界を自らの要求に即して絶えず改造していく。これは具体的に自然と社会が、人間の積極的な活動によってのみ人間の利益に即して改変されていくことを通じてもわかることができる。

人間による世界の支配と改造発展の合法則性にたいする主体的見解は次に、世界が人間に奉仕する方向へと発展するということである。

世界が人間に奉仕する方向へと発展するということは、人間による世界の支配と改造発展の基本方向を示す合法則性である。

世界が人間に奉仕する方向へと発展するというのは一言で、世界が人間の自主性がより立派に実現される方向へと改変されていくことを意味する。人間活動の根本目的が自主性を実現することにあり、また人間の自主性をめざす活動が絶えず深化されていく限り、世界は必然的により人間に奉仕する方向へと発展するようになる。

世界が人間の自主性がより立派に実現されていく方向に発展するというのは具体的に、人間に奉仕する自然と社会の領域と対象が絶えず拡大され、その深度が深まっていくことを通じてよくわかることができる。

人間による世界の支配と改造発展の合法則性にたいする主体的見解は次に、世界が人間の発展に伴って発展するということである。

世界が人間の発展に伴って発展するということは、人間による世界の支配と改造発展がなされていく様相を明らかにする合法則性である。

世界が人間の発展に相応して発展するというのは、人間の自主性、創造性、意識性が発展するにつれて世界の変化発展がより促進されていくことを意味する。世界が人間によって支配され改造される過程の促進程度は、人間の発展程度、人間の自主性、創造性、意識性の発展水準によって左右される。それゆえ、人間の自主性と創造性、意識性が発展し、彼らの積極的な活動が拡大、強化されるにつれて、必然的に世界の発展過程はより促進されるようになる。

世界が人間の発展に伴って発展するということは、人間の自主性と創造性、意識性が発展するにつれ、自然と社会の改造、発展過程が急ピッチで成されることを通じてもよくわかる。

問 15：世界に対応する主体的な観点と立場は何か

答：世界に対応する主体的な観点と立場は、人間の利益から出発して世界に対応し、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応することである。

世界に対応する主体的な観点と立場はまず、人間の利益から出発して世界に対応することである。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間を中心に世界に対応するというのは、世界の主人である人間の利益にもとづいて世界に対応することを意味します」

人間の利益から出発して世界に対応するということは、人間の利益実現に奉仕させる見地から世界をとらえ、対応することを意味する。

人間の利益から出発して世界に対応するためには、すべての活動において人間の自主的権利と利益を擁護することを最高の原則とすべきであり、認識と実践活動において提起されるすべての問題を人間の自主的志向と要求を実現するところに服従させるべきである。

認識と実践活動において提起されるすべての問題を人間の自主的志向と要求の実現に服従させるためには、人間の自主的志向と要求に即して認識と実践活動の対象を規定し、手段と方法を選択し、その結果を評価しなければならない。

世界に対応する主体的な観点と立場は次に、人間の活動を基本にとらえ、世界の変化発展に対応することである。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間を中心に世界に対応するというのは、世界の改造者である人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応することを意味します」

人間の活動を基本にして、世界の変化発展に対応するということは、世界を認識し、改造するうえで人間の能動的作用を基本にとらえ、すべての問題を人間の創造的力を引き出して解決していくということである。

戦後、朝鮮で戦争の被害をいやし、社会主義工業化の基礎を築こうとしたら、資材と資金、労力のすべてが足りなかった。このような時、金日成主席は人民を信じ、人民の力を組織動員することによって、直面した難関を打開していく鍵を求めた。

主席は、降仙の労働者階級を訪ね、彼らと膝をまじえて国に直面している厳しい難局について具体的に話し、1 万トンの鋼材をもっと生産するよう切実に呼びかけた。主席の愛と信頼に接した降仙の労働者階級はこぞってたちあがり、6 万トンしか生産することができないと言われていた分塊圧延機から 2 倍に当たる 12 万トンの鋼材を増産した。この驚くべきニュースは瞬く間に全国に伝えられ、かつて類例のない輝かしい奇跡が引き続き起こった。これこそ、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点と立場の具現された輝かしい成果であった。

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するためには、すべての活動において人間をより力強い存在に育成することを第一の工程とみなすべきであり、すべての問題を人間の創造的役割を高める方法で解決すべきである。

問 16：チュチェの社会歴史観とは何か

答:チュチェの社会歴史観とは、人民大衆を中心にすえて明らかにした社会歴史に対する見解、観点と立場を意味する。

言い換えれば、人民大衆を中心にして解明した社会的歴史的運動の固有の合法則性、歴史発展と社会革命に関する観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は、社会・歴史に作用する物質世界発展の一般的合法則性を認めるとともに、社会・歴史に固有の合法則性を解明しました」

チュチェの社会歴史観は、何よりも人民大衆を中心にすえて明らかにした社会歴史に対する見解、社会的歴史的運動の固有の合法則性をその重要な内容としている。

チュチェの社会歴史観は、歴史の主体は人民大衆であるという原理にもとづいて社会的歴史的運動は人民大衆の自主的運動、創造的運動、意識的運動であることを解明し、それによって社会的歴史的運動の固有の合法則性を究明した。これは社会的歴史的運動の本質と性格、推進力に対する新しい解明となる。

チュチェの社会歴史観は次に、歴史発展と社会革命を、人民大衆を中心にして対応する観点と立場をその重要な内容としている。

チュチェ思想は、社会的歴史的運動が人民大衆の自主的運動、創造的運動であり、意識的運動であるという原理にもとづいて自主的立場と創造的立場を守り、思想を基本にしていくことに対する新しい観点と立場を明らかにしている。

社会歴史観は哲学的世界観とともに長い歴史を経ながら発展してきた。しかし、マルクス主義以前の時期まで観念論者は言うまでもなく、唯物論と弁証法を提唱した人々もみな社会歴史に対しては観念論的立場に立っていた。

かつてのすべての社会歴史観とは異なって、歴史の主体に対する問題を

基礎的な問題として提起し、チュチェの運動としての社会歴史的運動の固有の合法則性と社会歴史を人民大衆を中心にすえて対応する観点と立場を全一的に体系化した人民大衆中心の社会歴史観であるというところに、チュチェの社会歴史観の特徴がある。

問 17：社会とは何か

答:社会とは一言で言って人々が生き、活動する集団である。人々が互いに有機的に結合して生き活動する集団であるというところに､社会の本質がある。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会とは一言でいって、人間が集まった集団です、人々が社会的財産をもち、社会的関係で結ばれて生活する集団がすなわち社会なのです」

社会は何よりも目的意識的な結合でなされた人々の集団である。

人々の集団は本能によって結合された動物の群れとは異なって､共通の生活上の要求と利害関係から出発してなされた目的意識的な結合である。人々の集団はその形態と規模、性格において極めて多様であるが、どれもみな目的と利害関係の共通性にもとづいてなされたものである。

原始人の氏族､種族から始まって今日の民族国家と国際社会にいたるすべての社会的集団は､みな人々の目的意識的な結合からなされたものである。目的意識的な結合でなされた集団であるというところに､人間の集団としての社会が動物の群れと区別される根本的特徴の一つがある。

社会は次に、組織的な結合からなされた人々の集団である。

人間の集団は動物の群れとは異なって個別的人間の単純な結合体ではなく、有機的に結合された組織的結合体である。

すべての集団の中には人々を結束させ統一的に動かせる組織体系と秩序、組織機構と手段がある。人々の集団である社会は発展すればするほど、より有機的に組織された集団として完成されて行く。

このように人々が目的意識的に､組織的に結合されて生き活動する集団であるというところに社会の本質がある。

社会には社会的存在である人間以外にも社会的富と社会的関係がある。

社会的富は人間が創造して利用する手段の総体として､これには物質的

富と精神的富が属する。人間は社会的富をもってこそ、自分の生存を保障して社会を維持し、さらに発展させて自分自身をより有力な存在に育て上げることができる。

社会的関係は人々が互いに結合されて社会をなすようにする秩序である。社会は人々が互いに結合して生き活動する集団であるため、彼らの間には一定の関係が結ばれる。社会的関係なしには社会がなされず、発展することもできない。

こう見るとき、社会には社会的存在である人間以外にも自然にはない社会的富と社会的関係がある。社会の本質を人々の集まった集団であるというのは、人間が社会的富と社会的関係の主人であるからである。

問 18：社会生活はどういう分野に分かれるのか

答：社会生活はいくつかの分野にわたって実に多様で複雑な形態を帯びておこなわれるが、それを大きく政治生活、経済生活、思想文化生活に分けて見ることができる。

社会生活の最も重要な分野は政治生活である。

金日成主席は次のように述べている。

「人間の生活でもっとも重要なのは、国家と社会の主人として真の政治的自由と権利を享有し、貴い社会的政治的生命をもってそれを輝かせていく政治生活です」

政治生活は一言で言って国家と社会の主人として生き発展しようとする社会的人間の本性的要求を実現して行く社会生活である。言い換えれば、それは国家と社会の平等な主人となって真の政治的自由と権利を営み、平等な主人となって真の政治的自由と権利を享受し、高貴な社会的政治的生命をもって輝かすための活動である。

政治生活は国家政権の主人となって真の政治的自由と権利を営む生活と党をはじめ、大衆政治団体に網羅されて社会的政治的生命をもってそれを輝かしていく政治組織生活に分けられる。真の政治生活は人民大衆が国家と社会の主人となっている社会主義社会においてのみ実現される。

政治生活は社会生活で決定的意義を持つ。それは政治生活をどのように営むかによって社会生活全般が左右され、また社会的人間にとって社会的政治的生命がもっとも貴重な生命であるからである。

社会生活の今一つの分野は経済生活である。

経済生活は人々の衣食住に必要な生活資料を生産して分配し、交換して消費する社会生活である。

人々が社会的人間の本性的要求に即した経済生活を享受するか否かは、該当社会の生産関係、経済制度によって左右される。生産手段に対する社会

的所有が唯一的に支配する社会主義社会でのみ人民大衆は経済生活の主人となって物質的富の真の創造者、享受者になりうる。

経済生活は社会生活の基礎をなしている。経済生活は人間の生存と発展に必要な物質的条件を整える社会生活分野であるため、政治生活と思想文化生活を物質的に保証する。

社会生活の今一つの分野は思想文化生活である。

人間は単に食・衣・住に対する要求で満足するのではなく、健全な思想と情緒、豊かな知識を持って生活を価値があり美しく、高尚で文明に行っていくことを求める。こうした人々の精神文化的要求を満たして行く社会生活分野がまさに思想文化生活である。

人々は思想文化生活を通じて自主的な思想意識と創造的能力、高尚な精神道徳的品格を備えて多様な文化情緒的要求を実現して行く。

思想文化生活には人々が自主的な思想で武装してそれを発揮するための思想生活とともに、人類が蓄積した科学技術を体得して発展させるための科学と教育活動、人々が無病長寿するように体力を育て、鍛える保健医療、スポーツ活動、文学と芸術を創造して享受する活動などが包含される。

人間の真の思想文化生活は人民が主人となった社会、社会主義社会でのみ可能である。社会主義社会では勤労人民大衆の本性的要求を反映した健全な思想と文化、生活方式が支配するために、人民は真の思想文化生活を享受しながら、自分自身をより有力な存在に発展させて行くことができる。

思想文化生活は社会生活できわめて重要な位置を占める。政治生活や経済生活はみな人々の生活であるため、人間がどのように準備されるかによってその水準と発展が左右される。思想文化生活を通じて人々は思想意識と創造的能力、高尚な精神道徳的品格と多様な文化情緒的素養を持つ社会的存在になってこそ、国家と社会の真の主人になり得るし、より多くの物質的富を創造してそれを正しく享受することができる。

問 19：社会の性格は何によって規定されるのか

答：社会の性格は国家主権と生産手段に対する所有関係によって規定される。

金日成主席は次のように述べている。

「その社会の性格は、権力がどの階級の手中にあり、生産手段の所有形態がどうなっているかによって規定されます」

社会の性格を特徴づける基本表徴は、その社会でどういう階級、どういう社会的集団が支配的地位を占めているかということである。しかし一定の階級、集団が社会で支配的地位を占めるには、二つの問題が解決されなければならない。

その一つは、国家政権を掌握することであり、もう一つは生産手段を所有することである。それは国家政権と生産手段を握っているか否かが、社会で占める人々の地位と役割を規定する基本要因であるからである。

社会の性格は何よりも、国家政権が誰の手に掌握されているかによって規定される。

国家政権は政党や社会団体とは異なって最も包括的な政治組織であり、国内のすべての人々をみな管轄する。そして国家政権は軍隊、警察、監獄のような強制力を動員して人々を服従させる。そのため国家政権を握った階級、社会的集団は自分の意思と利益に即してすべての社会の構成員を動かし、自分の意思と利益が具現される社会制度を打ち立て、維持することができる。反面、国家政権を掌握できなかった階級、社会的集団は、社会的に従属され抑圧される境遇に置かれる。

したがってどの階級、どの社会的集団が国家政権を掌握しているかによって社会の性格が規定される。

社会の性格はまた、生産手段に対する所有関係によっても規定される。生産手段は人間が生存し発展するうえで必要な生活資料を作り出すのに利

用される物質的手段である。したがって生産手段を誰がどのような形態で所有したかによって、経済生活で支配的地位を占める階級、集団が分かれるようになる。そしてこれが制度的に確立されれば、その社会の性格を集中的に表わすようになる。

仮に生産手段に対する私的所有形態が支配する社会は搾取社会になり、生産手段に対する社会的所有形態が支配する社会は社会主義社会となる。

このように社会の性格を規定する基本要因には国家政権をどの階級が握っているか、生産手段の所有関係がどうであるかという二つがあるが、ここで決定的なのはあくまでもどの階級が国家政権を握っているかということである。

問 20：自然の運動と区別される社会的運動の本質的特徴は何か

答: 自然の運動と根本的に区別される社会的運動の本質的特徴は、自然の運動には主体がないが、社会的運動には主体があるということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「…自然の運動には主体がないが、社会的運動には主体があります。自然の運動は客観的に存在する諸物質の相互作用によって自然発生的に進行するが、社会的運動は主体の主動的な作用と役割によって生成発展します」

社会的運動は、主体の主動的な作用と役割によって生成発展する運動である。

かつて、主体という言葉は、運動の担当者一般を指す概念として使われてきた。しかし、チュチェ思想でいう主体という言葉は社会的運動を主動的に、目的意識的に起こし、押し進めていく担当者を表現する概念である。こう見るとき、自然には運動を目的意識的に起こして押し進めていく担当者、主体がない。

自然の運動は客観的に存在する物質の相互作用によって自然発生的になされる。しかし、社会には運動を主動的に、目的意識的に起こして押し進めていく担当者、主体があり、それはほかならぬ人間、人民大衆である。

人民大衆は世界と自己の運命の主人として生き発展しようとする自主的要求から出発して周囲世界を支配し、改造する社会的運動を主動的に、目的意識的に起こして推し進めていく。人民大衆を抜きにしては、自然と社会を改造し変革するための社会的運動そのものがあり得ない。まさに自然の運動と区別される主体の運動としての社会的運動の固有の特徴がここにある。

社会的運動が主体の運動であるということは、決して社会的運動が客観的性格を帯びないとか、また社会的運動には自然発生性があり得ないということを意味するものではない。一定の社会的経済的条件が整えば、社会的運

動には必然的にそれに従う社会法則が作用し、それは自然法則と同じく客観的性格をもつ。そして社会的運動は、人間の自主性、創造性、意識性の発展水準が相対的に低く、それを十分に発揮させ得る社会制度が樹立されなかった条件のもとでは自然発生性を免れ得ない。

それゆえ、社会的運動の自然発生性の作用範囲を縮小し、主体の能動性と目的意識性の作用範囲を拡大させるためには、主体である人間、人民大衆の自主性、創造性、意識性を高め、それを十分に発揮させ得る社会制度を樹立しなければならない。

問 21：人民大衆が歴史の主体であるということは何を意味するのか

答:人民大衆が歴史の主体であるというのは、人民大衆が社会的運動を起こし押し進めていく担当者であることを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会的運動の主体は人民大衆です。人民大衆をぬきにしては社会的運動そのものが存在しえず、歴史の発展について語ることもできません」

チュチェの社会歴史観は、人民大衆が歴史の主体であるという原理に基づいて展開され体系化されている。

人民大衆は勤労する人々を基本にして自主的要求と創造的活動の共通性から結合された社会的集団である。

人民大衆が歴史の主体となるのは一言で言って、社会的運動が人民大衆によって起こり推進されるからである。

社会的運動は何よりも、人民大衆の自主的志向と要求によって起こる。

あらゆる形態の従属と束縛から脱し、世界と自らの運命の主人として生きようとするのは、人民大衆の本性的要求である。人民大衆はまさにこうした要求を持っているがゆえに、社会的運動を起こす。あらゆる従属と束縛から脱し、自然と社会の主人として自主的に、創造的に生きようとする人民大衆の要求をぬきにしては社会的運動について考えられない。

社会歴史的運動は次に、人民大衆の尽きない創造的能力によって進められる。

人民大衆は自然と社会を改造し得る最も知恵あり有力な存在である。こうした人民大衆の尽きない力と知恵によって社会のすべてのものが創造され歴史が前進する。

人民大衆が歴史の主体であるということは、決して歴史発展における個人の役割を否認するものではない。個人はその資質と能力によって歴史発展

にいろいろと寄与することができる。しかし個人は人民大衆の一構成員となって人民大衆の知恵と力に依拠するときにのみ、歴史の発展において肯定的な役割を果たすことができる。個人と同様に人々の小集団も人民大衆と合流してこそ歴史の主体の堂々たる構成員になり、歴史の発展に寄与し得る。

搾取階級は歴史の主体になり得ない。反動的搾取階級は社会を発展させることよりも、人民大衆を抑圧し搾取する特権的地位を維持することに利害関係を持つ。彼らは歴史が前進して新しい制度に発展していくことを恐れ、敵視しながら歴史の前進を阻止し、逆行させようと策動している。それゆえ、搾取階級は歴史の主体になり得ず、社会発展の過程で打倒されるべき歴史の反動、革命の対象となる。

問 22：歴史の自主的主体とは何か

答:歴史の自主的な主体とは自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく人民大衆である。言い換えれば、それは歴史と自己の運命を直接的に掌握し、自己の意思と要求通りに開拓していく人民大衆を意味する。

人類社会の初期から人民大衆は、歴史の主体として歴史を創造し、社会を発展させてきた。しかし、社会が互いに敵対する階級に分裂し搾取社会が生まれてから人民大衆はひどく搾取され抑圧される悲惨な境遇におかれるようになった。

こうして人民大衆は歴史の主体としての当然の地位を占めず、歴史の創造者としての役割をまともに果たすことができなかった。こういう境遇に置かれた人民大衆は、いまだに歴史と自己の運命を自分の手に握って自主的に、創造的に切り開く歴史の自主的な主体であると言えない。

歴史の主体から歴史の自主的な主体への歴史的転換は、歴史の舞台に労働者階級が出現し、卓越した領袖の指導を受けるときにはじめて可能になる。

金正日総書記は次のように述べている。

「人民大衆がいかに革命的に意識化、組織化されるか、いかに自己の革命任務と歴史的使命を遂行するかは、党と領袖の正しい指導を受けるか否かにかかっています」

労働者階級の出現は、人民大衆が歴史の自主的な主体に発展するための社会的、階級的条件となる。封建社会が崩壊し、資本主義社会が生まれながら、労働者階級が出現し、人民大衆を革命闘争へと導くようになってから、人民大衆が歴史の自主的な主体に発展し得る社会的階級的条件が整えられるようになった。しかし、これは先進的な労働者階級の出現だけで、歴史の自主的な主体が形成されたという意味ではない。

人民大衆を歴史の自主的な主体にならせる決定的要因は、卓越した指導者の指導を受けることである。人民大衆は卓越した指導者の指導のもとでの

み革命的に意識化､組織化されて自己の運命を自分の手に握った歴史の自主的な主体になるのである。

問 23：社会歴史的運動をなぜ人民大衆の自主的運動であるというのか

答：社会歴史的運動を人民大衆の自主的運動であるというのは、社会歴史的運動が人民大衆の自主性を擁護して実現するための闘争であるからである。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会的運動は人民大衆の自主性を実現する運動であり、社会が発展するということは、人民大衆の自主性を実現する闘争が深まっていくことを意味します」

社会歴史的運動が人民大衆の自主的運動であるという原理は、人民大衆を中心に据えて社会歴史的運動の本質を明らかにしたことである。

人民大衆は、自主性を本性とする自主的存在である。人民大衆は自主性が侵害され束縛されるのを許さず、したがって自然と社会と自分自身の主人として生き発展しようとする自主的な要求が完全に実現される時まで、絶え間ない闘争を展開するようになる。

人民大衆の自主性を擁護し実現するための闘争は、大きく自然と社会、自分自身を改造する闘争に分けて見ることができる。ところが、これらすべての闘争は、人民大衆が自らの自主性を擁護し実現するところに根本目的がある。

社会を改造する闘争は、人民大衆が階級的および民族的従属から脱し、自主的な生活を享受しうる社会的・政治的条件をつくる闘争である。人民大衆が自主的に生き発展するためには、社会的・政治的自主性を踏みにじり、抑圧するあらゆる古い社会制度を打ち破って先進的な社会制度を樹立しなければならない。ここから自主性を本性とする人民大衆は、あらゆる社会的従属と支配から脱するための闘争を展開するようになる。

自然を改造する闘争は、人民大衆が自然の束縛から脱し、自主的な生活

を享受し得る物質的条件をつくるための闘争である。自然を改造せずには、人々が自然の客観的法則に束縛されるようになり、自分の生存と発展に必要な物質的需要もまともに充足させることができない。ここから人民大衆は自然を改造するための闘争を展開していく。

人間を改造する闘争は、人民大衆が古い思想と文化の束縛から脱し、自主的な生活を享受し得る思想的・文化的条件をつくるための闘争である。人間が古い思想と文化に束縛されては自分の境遇と力もまともに自覚できず、自己の運命も自主的に切り開くことができない。ここから人民大衆は、古い思想と文化の束縛から完全に脱し、自主的な思想意識と健全な文化を所有するための人間改造活動を展開していく。

結局, 自然と社会と自分自身を改造するための人民大衆の闘争はすべて、自主性を擁護し実現するところにその根本的目的がある。

社会歴史的運動が人民大衆の自主的運動であるということは、人類社会の長い発展歴史が実証する明白な事実である。

社会が敵対する階級に分裂されて以来、人類社会が経てきた全歴史は何よりも、人民大衆の社会的・政治的自主性を実現するための社会革命の歴史であった。

史上、自主性をめざす被搾取勤労大衆の初の進出だといえる奴隷暴動と、中世の農民の反封建闘争により、奴隷制度や封建制度が崩壊したことは、勤労人民大衆の自主性をめざすたたかいにおける前進であった。しかし、それらは人民大衆を束縛した奴隷の鉄鎖を封建の鎖に、さらには資本のくびきにとって代わっただけで、階級的支配と抑圧そのものは廃絶できなかった。人類社会の歴史において、資本主義は自主性に対する人民大衆の志向と要求を踏みにじる最後の搾取制度であり、階級的支配と民族的抑圧を結合させた横暴な抑圧制度である。

資本主義制度の一掃と新しい社会主義制度の樹立は、自主性をめざす革命闘争の発展において歴史的な転換となる。社会主義制度が樹立されること

により、自主性に対する人民大衆の志向と要求を踏みにじり、抑圧するあらゆる搾取階級と搾取制度が一掃され、人民大衆が自分の手に主権と生産手段を握って自主的な生活を思う存分享受し得る条件がつくられた。

人民大衆は人類社会の発展の全期間にわたって自然の束縛から脱し、思想的・文化的に発展するために絶えずたたかってきた。

人類社会の黎明期には、人々の創造的力も弱く、思想文化水準も極めて低かった。人民大衆は、長い歳月にわたる厳しい闘争を通じて自然を征服する力を養い、知識を習得しながら生産力を発展させ、自分自身の思想意識水準と文化水準を絶えず高めてきた。人類社会が到達した先進思想と現代科学技術、文学芸術などはみな、人民大衆が展開してきた歴史的な闘争の結実である。

問 24：社会は人民大衆の自主性をめざす闘争によってどのように発展していくのか

答:社会は人民大衆の社会的・政治的自主性の実現をめざす社会改造の課題が優先的に提起されて実現し、その次に自然改造と人間改造の課題が前面に提起されて実現されていく過程を通じて絶えず発展する。

人民大衆の自主性をめざすたたかいでは、何よりも社会的政治的自主性の実現をめざす社会改造の課題が前面に提起されて実現されていく。

金正日総書記は次のように述べている。

「人民大衆の自主性をめざす闘争で第一義的な問題となるのは、社会的、政治的に自主性を実現することです」

社会的、政治的自主性を実現するということは人民大衆があらゆる社会的従属と不平等、搾取と抑圧から脱して国家と社会の主人としての権利を行使することを意味する。

搾取社会で人民大衆は、歴史と自己の運命の主人としての地位を占めることができず、極少数の支配階級と搾取階級の搾取と抑圧の対象と見なされてきた。勤労人民大衆が搾取と抑圧の対象となっている状況下では、自然と社会を改造する活動がおこなわれてもそれが搾取階級の利益に即して行なわれるだけで、人民大衆の要求と志向に即して行なわれることができなかった。資本主義制度の一掃と新しい社会主義制度の樹立は人民大衆の自主性を実現するたたかいにおいて歴史的な転換となる。

社会主義制度の樹立により、自主性をめざす人民大衆の志向と要求を踏みにじって抑える搾取階級と搾取制度が一掃され、人民大衆の社会的・政治的自主性が実現されるようになる。

人民大衆の社会的、政治的自主性が実現した状況の下で人民大衆の自主性をめざすたたかいでは次に、自然改造と人間改造の課題が前面に提起され実現されていくようになる。

人民大衆の自主性を完全に実現するためには、彼らを社会的、政治的従属から解放して、国家と社会の主人に作り上げるとともに自然と自分自身の主人に準備しなければならない。もちろん人民大衆は歴史発展の全過程にわたって、自然の束縛から脱し、自分の思想意識水準と文化水準を高めるために絶えずたたかってきた。

しかし人民大衆が自然の束縛から脱するための自然改造と古い思想と文化の束縛から脱して自主的な思想意識と文化の真の所有者になるための人間改造の歴史的課題は、人民大衆が国家と社会の主人になった社会主義社会にいたって前面に提起されて立派に実現され得る。

社会主義社会では国家と社会の主人となった人民大衆が高い創意性と意識性を持って自然改造、人間改造に主人らしく参加し、すべての手段を統一的に、効率的に動員する。こうして自然改造、人間改造が全社会的範囲で順調に速い急ピッチで行われ、それを踏まえて社会関係も引き続きより合理的に改善されていく。

結局、社会改造、自然改造、人間改造の課題を実現していく合法則的過程を通じて、人民大衆の自主性をめざすたたかいは深化発展し、それによって社会は絶えず発展していくのである。

問 25：社会的・歴史的運動をなぜ人民大衆の創造的運動であるというのか

答:社会的・歴史的運動を人民大衆の創造的運動であるというのは、人民大衆の創造的闘争によって自然と社会が改造し変革され、歴史が発展するからである。

金正日総書記は次のようにのべている。

「社会的・歴史的運動は自然と社会を改造し変革する人民大衆の創造的運動です」

社会歴史的運動が人民大衆の創造的運動であるという原理は、人民大衆を中心にすえて社会的・歴史的運動の性格を解明したものである。

人民大衆は創造性を本性とする創造的存在である。

歴史の主体である人民大衆は古いものをなくし、新しいものを創造することを求める。人民大衆は、自然と社会の従属と束縛から脱し、自主的に生きることを望む。ところが、自然と社会の従属と束縛から脱し、自主的に生きるためには、自主性を束縛するあらゆる古いものをなくし、新しいものを創造すべきである。もし、古いものをなくし、新しいものを作り出そうとする人民大衆の創造的要求がなかったならば、数え切れないほどの多い創造物の建設も、人間そのものもとうてい生存できなかったであろう。

人民大衆は古いものをなくし、新しいものを創造することを要求するだけでなく、その要求を実現しうる能力をもっている。人民大衆は自然と社会を改造するうえで必要な知識と技術、経験をもっており、また自らの要求を実現しうる団結した力をもっている。人民大衆はこのような創造的能力をもっているがゆえに、自然と社会を改造するようになる。

結局、人民大衆が古いものをなくし新しいものを創造することを要求し、自らの創造的能力で自然と社会を改造し変革していくことにより、社会的・歴史的運動は人民大衆の創造的運動となるのである。

社会的·歴史的運動が自然と社会を改造していく人民大衆の創造的運動であるということは、人民大衆の創造的闘争によって社会の物質的・文化的財貨が絶えず創造され、古い社会が新しい社会に改造されてきた人類史の全過程が確証している明白な事実である。

人民大衆は自然と社会を改造し変革していく闘争のなかで知識と技能、経験などを体得し、肉体を鍛練するようになったことにより、創造的能力を絶えず発展させ自分をより強力な存在として育てていく。

このように社会的·歴史的運動は人民大衆が自らの創造的闘争で、自然と社会を絶えず改造し変革してきた過程であると同時に、自分自身を強力な存在に育ててきた過程であるがゆえに、名実ともに人民大衆の創造的運動となる。

問 26：人民大衆の創造的役割の向上に伴って、社会はどのように発展していくのか

答:社会は、人民大衆の自主的な思想意識と創造的な能力の向上に伴ってその創造的役割が大きくなり、それに従って社会的富が増大し社会的関係が改善され、絶えず発展していく。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会の発展はつまるところ、人民大衆の創造的能力と役割の向上によってなしとげられるのです」

社会の発展はなによりも、人民大衆の自主的な思想意識と創造的能力の発展から始まる。

社会が発展するということは、人間と社会的富、社会的関係が発展することを意味する。ところが、社会の発展は社会的富や社会的関係の発展からではなく、人間、人民大衆の自主的な思想意識と創造的能力の発展から始まる。

それは人民大衆が社会的富や社会的関係を作りだす創造者であり、それを利用し改造していく、社会の主人であるからである。社会的運動を起こしおし進めるのは、社会的富や社会的関係ではなく、人民大衆であるだけに、社会の発展過程が人民大衆の自主的な思想意識と創造的能力の発展から始まるのは合法則的である。

また社会の発展は、人民大衆の自主的な思想意識と創造的能力が発展し、その創造的役割が高まるにつれて社会的富が増え、社会関係が改善されながら発展する。

まず、人民大衆の創造的活動が強化されるにつれて社会的富が増大していく。社会的富が増大するということは、人間の要求を満たせるのに必要な生活手段が豊富になり、創造的活動に利用することのできる手段がより多様で有力になるということを意味する。人民大衆は自主的な思想意識と創造的能力の発展程度にふさわしく、より高い水準の要求を提起し、その実現をめ

ざす創造的活動を展開する。その過程で人民大衆のより高い水準の要求を充足させる多様で発展した社会的富が創造されるようになる。

また人民大衆の創造的役割が高まるにつれて社会的関係も改善される。社会関係が改善されるということは、それが人々の自主性と創造性がより円満に実現するよう、合理的に改善されていくことを意味する。人民大衆は、自主的な思想意識水準が高ければ高いほど、そして一つの政治的勢力に固く結束するほどより合理的かつ、先進的な社会関係を求め、その実現のために積極的に活動するようになる。その過程で古い社会関係が一掃されて新たな社会関係が確立され、合理的に改善されていく。

このように、人民大衆の自主的な思想意識と創造的能力が発展し、彼らの創造的役割が高まるにつれて社会的富が増え、社会的関係が改善されるような、合法則的過程を通じて社会は絶えず発展する。

問 27：社会的・歴史的運動をなぜ人民大衆の意識的な運動であるというのか

答:社会的・歴史的運動を人民大衆の意識的な運動であるというのは、社会的・歴史的運動が人民大衆の目的意識的な活動によって推進されるからである。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動はすべて意識的な運動です」

社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的な運動であるという原理は、人民大衆を中心にすえて社会的・歴史的運動の推進力を解明したものである。

人民大衆は意識性を本性とする社会的存在である。

人民大衆は自主性を実現するための創造的運動を意識的に展開する。人民大衆は自主的に生きようという要求も意識的に提起し、その実現のための認識活動、実践活動も意識的に展開していく。人民大衆の目的意識的な活動により、世界を改造し自己の運命を開拓するための自主的で創造的なすべての活動が展開される。

自然と社会を改造する人民大衆の活動はまず、思想意識によって推し進められる。

思想意識は人間の要求と利害関係を反映した意識である。人間の要求と利害関係を反映したがゆえに、思想意識は人間の活動を起こし、推し進める強力な推進力となる。

自然と社会を改造する人民大衆の活動はまた、科学技術知識によって推し進められる。

人間の活動を推し進める意識の規制作用は、思想意識に限るのではない。科学技術知識は思想意識と異なって、事物現象の運動法則を正確に反映した意識の形態である。事物現象の特性と運動法則、それを改造し利用する方法を正しく反映したことにより、科学技術知識は人々をして自らの目的を実現

するための活動をゆるぎなく成功裏に行っていくように推進する。

人々の活動を推進するうえで知識は重要な役割を果たすが、それは思想意識の規制のもとでのみ人間の活動に影響を及ぼす。人間のすべての思考と活動の基礎には思想意識がある。人間の活動において決定的な役割を果たすのはあくまでも思想意識である。

思想意識は人々の知識と技術、知恵と才能の形成、その利用方向、発揮の程度を規制することにより、社会的・歴史的運動を起こし、前進させる基本推進力となる。

結局、社会歴史的運動は人民大衆の自主的な思想意識を基本推進力として起こり、前進する意識的な運動になる。まさにここに社会的・歴史的運動を人民大衆の意識的な運動であるという本質的な意味がある。

問 28：自主的な思想意識が革命運動をどのように推進させるのか

答: 革命運動はその運動に参加する人々の行動の階級的性格と彼らの意志、闘争力を規制する自主的な思想意識の決定的役割によって積極的に推進される。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主的な思想・意識、革命的な思想・意識は自主性を擁護し、自然と社会を革命的に改造する革命闘争を促し、反動的な思想・意識は人民大衆の自主性を踏みにじり、社会の発展を抑制する反動的な作用をします」

自主的な思想・意識は何よりも、革命運動に参加する人々の行動の階級的性格を規制することにより、革命運動を積極的に推進する。

階級社会において超階級的な思想とはありえず、人々の思想・意識において基本は階級意識である。階級闘争にたいする人々の態度と立場は、階級意識によって規制される。もちろん、人々の活動は社会的・階級的境遇に基礎をおき、それによって制約される。ところが、社会的・階級的境遇はあくまでも思想・意識を通じて人々の行動に影響を及ぼす。階級社会において、人々がどの階級の利益を擁護してたたかうかということは、彼らがどの階級の思想をもっているかによって決定されるのである。先進階級の思想、自主的な思想意識は人々をして正しい階級的立場をもち、革命運動に積極的に立ち上がるようにする。

自主的な思想・意識は次に、革命運動で発揮される人々の意志と闘争力を規制することを通じて革命運動を積極的に推進する。

人々がどれほど強い意志と力を発揮するかというのは思想の問題である。大衆の革命的能力は無尽蔵であるが、思想的に目覚められていないときにはそれが高く発揮できない。思想的に目覚められていない大衆は、搾取と抑圧を受けても革命闘争に奮起することができず、革命闘争の前途を阻む小

さな難関や試練のまえでも屈するようになる。

　自主的な思想意識で武装した人間のみが革命闘争において確固とした立場と態度を堅持し、固い意志をもって革命に積極的に参加し、あらゆる難関と試練にも打ち勝ちながら最後までたたかうことができる。

　このように革命運動は人民大衆の自主的な思想意識の決定的な役割によって起こり、積極的に推進されるようになる。

問 29：チュチェ思想の指導的原則とは何か

答:チュチェ思想の指導的原則とは党および国家活動、革命と建設のすべての分野で主体性を確立するための指針である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想の指導的原則は、党および国家活動、革命と建設のすべての分野で主体性を確立するための指針です」

チュチェ思想の指導的原則は自主的立場を堅持する原則、創造的方法を具現する原則、思想を基本にとらえていく原則からなっている。

自主的立場を堅持する原則は思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を内容としている。この原則は人民大衆をして自己の自主的権利を擁護し、革命の主人としての責任を果たせ、自主性を実現するための闘争を力強く進めるようにする。

創造的方法を具現する原則は、人民大衆に依拠する方法と実情に即しておこなう方法を内容としている。この原則は人民大衆の創造的知恵と力に依拠し、それを積極的に奮起させて社会歴史発展過程を推し進めるようにする。

思想を基本にとらえる原則は、思想改造を優先させながら政治活動を先に立たせることを内容としている。この原則は人々の思想を改造し彼らの政治的自覚と革命的熱意を高めて革命闘争と建設事業を積極的にうながすようにする。

チュチェ思想の指導的原則は党および国家活動、革命と建設のすべての分野で主体性を徹底的に確立して、いかなる紆余曲折と偏向もなしに、革命闘争と建設事業を立派に遂行しうるようにするもっとも正しい指導的指針となる。

問 30：自主的立場とは何か

答:自主的立場は一言でいって、人民大衆が革命と建設の主人としての地位を守るための根本的立場である。すなわち人民大衆が革命と建設の主人としての権利を守り行使することにより、主人としての責任をまっとうする立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主性を擁護するためには、革命と建設で自主的立場をかたく守らなければなりません。

金日成同志が述べているように、自主的立場は革命と建設で守るべき根本的立場であります」

自主的立場は何よりも、人民大衆が革命と建設の主人としての権利を守る立場である。

人民大衆が革命と建設の主人としての権利を守るということは、革命と建設におけるすべての問題を、人民大衆自身が独自の判断と決心によって自己の利益に即して処理することを意味する。

自主的立場は、いかなる複雑な状況下でも自己の主見と信念にしたがって行動し、すべてを自己の要求と利益に即して解決し、自分の見解がなく、他人を仰ぎ見、情勢の成り行き次第に任せるようなことに、決定的に反対する立場である。独自性がなく他人に従属されて自己の問題を自分の決心通り処理できず、他人の意思に追随して自己の利益を守らないことは自主的立場に反する。

自主的立場は次に、人民大衆が革命と建設の主人としての責任を果たす立場である。

人民大衆が革命と建設の主人としての責任を果たすことは、革命と建設におけるすべての問題を主人らしく、自分が責任をもって自力で解決するということである。

自分のやるべきことを他人に委任し、他人のおかげで自分の問題を解決しようとするならば、それは主人としての責任を回避することであり、主人の立場を捨てることである。

1936 年、スペインで人民戦線は、帝国主義連合勢力と結託していたフランコ反革命勢力と革命戦争をした。当時旧ソ連などのヨーロッパの国の多くは、たたかうスペイン人民に多くの人的、物的、財政的支援を与えた。ところが、スペイン人民戦線は、フランコファッショ一味の反革命的進出を退けず、結局政権を奪われてしまった。このようになったのは、もちろん帝国主義列強の背信的な陰謀策動と、とりわけファッショドイツとイタリアの露骨的な武装干渉が重要な原因になったことは事実である。しかし、当時スペイン革命への国際的な支持声援が大きかった状況のもとでも、スペイン人民戦線が革命の獲得物を最後まで固守できなかった基本要因は、自己の主体的力量をしっかりと備えず、そこに徹底的に依拠しなかったところにある。

このような歴史的事実は、革命と建設はあくまでも自分が責任をもって自力でおこなうべきであり、そうしてこそ革命と建設を自国民の利益に即して立派におこない、またその成果も実に強固なものにすることができるということを示している。

自主的立場は、革命と建設におけるすべての問題を自己の独自的な信念にしたがって、自分が責任をもって自力で解決する立場として、革命と建設で堅持すべき根本的立場となる。

問 31：思想において主体性を確立するというのは何を意味するか

答:思想において主体性を確立するというのは、革命と建設の主人であるという自覚をもち、自国の革命を中心にすえてすべてのことを思考し、すべての問題を自己の知恵と力で解決する観点と態度をとることを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「思想において主体性を確立するというのは、革命と建設の主人としての自覚をもち、自国の革命を中心にすえてすべてのことを思考し、実践し、すべての問題を自らの知恵と力で解決していく観点と態度をとることを意味します」

各国の革命と建設の主人はその国の人民であるため、他人にたいする依存心をもてば革命と建設を正しく解決できない。

戦後、朝鮮において党思想活動分野に入ってきた事大主義、教条主義者たちは、朝鮮のものはつまらないものとみなし、外国のものは丸ごと良いと見る民族虚無主義に陥っていた。

金日成主席はチュチェ 44（1955）年 12 月、「思想活動において教条主義と形式主義を一掃し、主体性を確立するために」の著作を発表し、当時党思想活動分野に入った反党反革命分派分子の事大主義、教条主義的策動の本質とその有害性についてことごとく暴露した。

主席は著作で、朝鮮革命はすなわち朝鮮労働党の思想活動の主体であり、したがってわが党の思想活動はあくまでも党員と勤労者が朝鮮革命に責任をもつ主人としての正しい自覚をもち、自国の革命を中心にすえてすべてを思考し、実践し、革命と建設におけるすべての問題を自力で解決する観点と態度をとることに集中しなければならないと明らかにした。

そこで他人のいうことをオウムのように真似ることに慣れ、朝鮮労働党が新しく独創的な路線を打ち出すたびに、それがマルクス・レーニン主義の

古典や大国の経験に合うか合わないかの方から先につきとめていた教条主義者、事大主義者たちに決定的な打撃が加えられ、朝鮮人民の思想生活において根本的な転換がもたらされた。

思想において主体性を確立するためには、自主的な思想意識と自己の党の路線と政策で武装し自分のものに精通しなければならない。また民族的自尊心と革命的自負をもち、民族文化を発展させ、人民の文化技術水準を高めることが重要である。思想において主体性を確立するうえで、事大主義などのあらゆる古い思想を徹底的に根絶することが、とりわけ重要である。

問 32：政治において自主性を実現することは何を意味するのか

答:政治において自主性を実現するというのは、自国人民の民族的独立と自主権を固守し、自国人民の利益を擁護し、その力に依拠する政治を実施することを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「政治において自主性を堅持するというのは、自国人民の民族独立と自主権を固守し、自国人民の利益を擁護し、自国人民の力に依拠する政治をおこなうことを意味します」

他人の圧力や干渉を容認し、他人の笛に踊るなら国家活動において原則性と一貫性が堅持できず、結局は革命と建設をりっぱにおこなうことができない。

第 2 次世界大戦後、社会主義の道に入った少なからずの国々の場合がこれをよく示している。

当時、社会主義を建設していた各国の党は、革命を先におこなった大国の路線と政策を絶対化し、それをそのまま受け入れることを革命の原則を守る一つの基準のようにみなした。

これらの国では党も国家も大国を真似て建設し、大国で党大会を開くと先を争って自国でも党大会を開き、大国で何かをすれば自国の実情に合うか否かにかかわらずそのまま受け入れた。モスクワで傘をさすとベルリンやブダペストでは、雨が降らなくても傘をさして歩いたという風聞もある。

ところが、わが国では金日成主席の賢明な指導により、解放後、建党、建国、建軍路線も技術改造に先立って経理形態を社会主義的に改造する農業協同化方針も、自国人民の意思に即して立て、自国人民の力に依拠して貫徹した。そして思想、技術、文化の 3 大革命を主要内容とする社会主義建設の総路線など、すべての路線と政策も自国の実情に合わせて打ち立て貫徹した。

そこで大国に盲従盲動していた国々が、大国の崩壊とともにその存在を終えたが、朝鮮の社会主義は今日のように複雑な情勢と、地球の東西を席巻した政治風波のなかでも微動だにせず、生々・発展するようになった。

歴史的経験は政治において自主を実現してこそ、国と民族の政治的自主性を固守し輝かしていくことを示している。

政治における自主を実現するうえで重要なのは、真の人民の政権を立て主体的な政治勢力をしっかり備え、自己の指導思想をもって、あらゆる路線と政策を独自に決定し貫徹することである。

政治における自主を実現するうえで特別に重要な問題は、先軍政治を実現することである。いつにもまして横暴になっている帝国主義者の侵略戦争策動により、国が崩壊されてもどこかに訴えることのできない今日の状況のもとで、先軍政治をしないと国の尊厳や自主権を守ることができない。それゆえ、軍隊を革命の柱、主力軍に押し立て、軍事優先の原則のうえで革命と建設におけるすべての問題を解決しなければならない。まさにここに先軍政治の本質があり、政治的自主性をしっかり固守し実現していくための裏づけがある。

問 33：経済において自立するというのは何を意味するのか

答:経済において自立するというのは、すなわち自立的民族経済を建設するということである。すなわち、独り立ちできる経済、他国に従属せず自国人民に奉仕し、自力で発展する経済を建設することを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「自立的民族経済を建設するというのは､他国に従属せず独り立ちできる経済、自国人民に奉仕し、自国の資源と人民の力によって発展する経済を建設することを意味します」

生活のなかで借金をすると気が小さくなるように､国の場合も経済的に他国に従属されると、自主権を行使できなくなる。とりわけ、かつて帝国主義者の支配と略奪によって経済技術的に立ち遅れた国は､帝国主義者の支配と従属から完全に脱するために、経済的自立の道に進むべきである。

ひと頃、大国主義者たちは朝鮮を「コメコン」に引き入れようとした。

「コメコン」は、一部の東欧社会主義諸国が第 2 次世界大戦後、破壊された経済を復旧しアメリカの経済封鎖政策に対処して、1949 年 1 月に発足させた社会主義諸国間の経済協力機構であった。

しかし現代修正主義者たちは「コメコン」を、他国を経済的に支配し政治的に従属させる道具にしようと「国際分業」を提唱し、国別に生産を専門化することを求めた。たとえば、野菜の栽培がよくできる国は野菜業を専門化して野菜を他国に輸出し､その代わり必要な機械を輸入して使うということである。現代修正主義者たちは無尽蔵な鉄鉱石を狙って、朝鮮を「コメコン」に加入させた後、安価で鉄鉱石を買い入れ機械製品などを高価で売りつけようとしたのである。

金日成主席は、わが国に機械工業がない状況下で国際分業に参加するならば、「コメコン」の加入国などに原料ぐらいを供給しなければならない

ことになる、するとわれわれには空っぽの洞窟しか残らざるを得なくなり、いつも他国に物乞いをしなければならなくなるといわれ、自立的民族経済建設路線を確固と堅持するようにした。

そこで朝鮮人民は、大国主義者からの「コメコン」への加入圧力に耐えて最後まで加入せず、自立的民族経済建設路線を一貫して貫徹し、自力で動き、多方面的で総合的に発展した強力な自立的民族経済を建設することができた。

歴史的経験は経済で自立してこそ、自主権を固守し国と民族の富強繁栄をなしとげることができることを示している。

経済的自立の原則で自立的民族経済を建設するためには、自力で革命を最後までおこなう革命精神であり闘争原則である、自力更生の原則を堅持し経済を多方面的に、総合的に建設し発展させなければならない。また、自立的民族経済を建設するうえで経済を近代的技術で装備し、民族技術人材を多く育成し自国の原料、燃料基地をしっかりと備えることが重要である。

問 34：国防において自衛を実現するというのは何を意味するのか

答:国防において自衛を実現するというのは、一言で言って自力で自国の防衛に当たるようにするということである。すなわち、各国の人民が自力で自国の防衛に当たる強力な国防力を備え、国防建設と軍事活動におけるすべての問題を、自国人民の利益と自国の実情に即して解決することを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「国防において自衛の原則を貫くというのは、自らの力で自国の防衛に当たることを意味します」

国防において自衛を実現することは、自主独立国家建設の根本原則である。帝国主義が残っている状況のもとで、内外の敵から自国を守れる自衛の国防力をもっていない国は、事実上、完全な自主独立国家であるといえない。自衛の国防力をもってこそ、帝国主義者の侵略から自国の主権と人民、領土を守り、完全な自主独立国家になれるのである。

国防において自衛を実現することは経済的自立のためにも必要である。

自立的民族経済建設はその平和的担保が保障されなければならない。ところが平和は決して、帝国主義者に訴えることで実現されるものではない。平和は必ず帝国主義者の戦争挑発策動を阻止、破綻させうる強力な軍事的力によってのみ保証される。それゆえ、平和的状況で自立的民族経済を立派に建設するためには、国防の自衛を実現して自己の強力な国防力を備えなければならない。

国防における自衛を実現するうえで重要なのは、人民の子女で強力な革命軍隊をつくり、その政治思想的優越性を高く発揮させることである。

人民の自由と解放のためにたたかう気高い革命精神、党と領袖にたいする限りない忠実性、祖国と革命のために青春や生命をも惜しみなくささげる無比の犠牲精神と大衆的英雄主義、将兵間の革命的同志愛と人民との血縁的

連携、自発的軍事規律などは、革命軍隊の固有の政治思想的優越性である。

国防において自衛を実現するうえで重要なのはまた、全軍を幹部化、近代化し、全民を武装させ全国を要塞化して、全人民的、全国家的防衛体系を確立し、自国の強力な国防工業を建設し後方を強化することである。

問 35：創造的立場とは何か

答:創造的立場は、人民大衆が革命と建設において主人としての役割を果たすようにする立場である。すなわち、革命と建設におけるすべての問題を人民大衆の創造力を積極的に引き出し、自国の具体的な実情に即して独創的に解決していく立場である。

金日成主席は次のように述べている。

「創造的立場を堅持するということは、革命と建設におけるすべての問題を勤労人民大衆の創造力を引きだし、自国の具体的実情に即して独創的に解決していくということを意味します」

創造的立場は何よりも、革命と建設で人民大衆の創造力を引き出す立場である。

人民大衆の創造力を引き出すということは、彼らの革命的熱意と創造的積極性を高く発揚させることを意味する。人民大衆の革命的熱意と創造的積極性が高く発揚される際、革命と建設は立派に遂行される。

創造的立場は人民大衆の創造力を見ようとせず、物質技術的手段のみを絶対視する技術万能主義、革新と前進を恐れる保守主義や消極性を徹底的に反対排撃する立場である。

創造的立場は次に、革命と建設におけるすべての問題を自国の具体的実情に即して独創的に解決する立場である。

あらゆる問題を具体的実情に即して解決することは、国の具体的な状況と、絶えず変化する現実に即して解決することを意味する。

あらゆる問題を具体的実情に即して解決してこそ、革命と建設の科学的方途を正しく見出し、革命と建設で人民大衆の役割を最大限に高めることができる。

創造的立場は、既成理論と他国の経験にいつも批判的に対応し、そこで価値あり有益なものだけを受け入れ、受け入れる場合にしても自国の実情に

即して受け入れる立場であり、具体的な現実を離れて既成理論と他国の経験を機械的に適用し、鵜呑みにする教条主義と根本的に相違する立場である。

問 36：人民大衆に依拠するというのは何を意味するのか

答: 人民大衆に依拠するというのは、革命と建設におけるすべての問題を、人民大衆の創造的力と知恵を動員して解決していくことを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命と建設の成果は、結局人民大衆の創造力をいかに動員するかにかかっています。

人民大衆は革命と建設をおし進める決定的力量であるため、人民大衆に依拠してこそ、いかに困難な問題も成功裏に解決し、革命と建設を力強く進めることができます」

「三人寄れば文殊の知恵」という諺がある。諸葛孔明は中国三国時代の名将である。彼は英知に富んだ人として特出した才能を発揮して国を治め、軍を統率するうえで中国史上、指折りの人物と知られている。そこで昔から知恵のある人を諸葛孔明にたとえてきた。

「三人寄れば文殊の知恵」というのは、個人の力と知恵がいくら強くて聡明であっても、大衆の力と知恵よりは劣るということである。すなわち、一人より幾人の方がより有力で知恵に富むということである。

人民大衆は世界でもっとも有力で知恵のある存在であるだけに、民衆が主人らしい自覚をもって奮起さえすれば、革命と建設におけるいかなる困難な問題も成功裏に解決できる。

人民大衆に依拠して革命と建設を成功裏に遂行していくうえで重要なのは、民衆の要求と志向を反映して正しい路線と政策を立て、それを民衆自身のものにし、民衆を一つの政治的勢力にしっかりと結束させ、革新を妨害するあらゆる古いものに反対してたたかい、大衆的運動を広く展開することである。人民大衆に依拠して革命と建設を遂行するうえで革命的活動方法を確立することが特別に重要である。

問 37：実情に即しておこなうというのは何を意味するか

答:実情に即しておこなうというのは、すべての問題を絶えず変化発展する現実に即して、そして各国の具体的実情に即して解決していくことを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動は,すべての問題を変化、発展する現実と国の具体的条件に即して解決していくことを求めます」

革命と建設は一所にとどまっているのではなく、絶えず変化発展する。それゆえ各国の人民が革命と建設を立派におこなうためには、変化発展する現実と国の具体的条件を打算し、それに合わせてすべての問題を解決すべきである。

朝鮮で戦後、農村経理を社会主義的に改造する問題が提起された際、一部の人々は、国の工業化が完成されていない状況で、いかにして農村経理を社会主義的に改造するのかと反対した。当時までは経理形態の社会主義的改造は、工業化を実現した上でのみ可能なことと見るのが、一つの公式のようになっていた。

ところが、金日成主席は 3 年間の苛烈な戦争で農村経理がことごとく破壊され、農民の生活が非常に零落した実情と、協同化を求めそれを担当して遂行しうる主体的力量が備えられている現実を明哲に洞察し、技術的改造に先立って経理形態を社会主義的に改造する農業協同化の独創的な道を示した。

主席が独創的に打ち出した農業協同化方針があるがために、朝鮮では困難で巨大な社会的変革がわずか 4～5 年という短期間に輝かしく遂行された。これはすべての問題を変化発展する現実と自国の具体的状況に即して、革命と建設を最大限に推し進める輝かしい模範となる。

革命と建設を実情に合わせておこなううえで重要なのはまず、自国の革命の主客観的条件をよく打算し、それに合わせて路線と政策、戦略戦術を規定することである。

革命の主客観的条件を打算するうえでは、主体的な革命勢力がいかに準備されているかに第一義的な注目をはらうべきである。なぜならば、革命勝利の決定的要因は客観的条件ではなく主体的要因、主体的革命勢力であるためである。

革命と建設を実情に合わせておこなううえで重要なのはまた、既成理論に正しく対し、新たな歴史的条件と自国の具体的実情に即して、新しい原理と方途を積極的に探求し他人の経験に批判的に、創造的に対することである。

問 38：革命と建設で思想を基本として とらえるということは何を意味するか

答: 思想を基本としてとらえていくことは、革命と建設において思想的要因に決定的意義を付与し、革命と建設におけるすべての問題を思想意識の役割を高めて解決するということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動は意識的な運動であるため、革命闘争と建設事業においてはつねに人間の思想を基本としてとらえていくべきです。人間の思想を基本にとらえていくのは、革命と建設で堅持すべき重要な原則です」

思想的要因に決定的意義を付与することは、革命運動に作用する二つの要因、つまり思想的要因と物質的要因のなかで思想的要因をより重視するということであり、思想意識の役割を高めてすべての問題を解決するということは、技術実務的方法や行政的方法ではなく、人々の思想を発動して革命と建設をおこなうことを意味する。

革命と建設で思想を基本としてとらえていくことは、革命運動発展の合法則的要求である。

革命運動には思想的要因と物質的要因が作用する。ここで決定的役割を果たすのは思想意識をもつ人間である。物質的条件が立派に整えられているとしても、人間が思想的に発動しないと革命と建設がはかどらない。物質的条件も人間がつくり利用する。それゆえ、革命と建設を立派におこなうためには、必ず人々の思想を基本としてとらえるべきである。

革命と建設で思想を基本としてとらえていかなければならないのは次に、思想を発動してすべての問題を解決するのが、人民大衆の自主性のためにたたかう人間の本性的方法であるためである。

反動的な搾取階級、支配階級は勤労人民大衆を動員するにおいて強権と弾圧に依拠するが、人民のためにたたかう革命家は人々を思想的に目覚めさ

せて、自発的に奮起させる方法で革命闘争へと組織動員する。

革命家は、人民大衆の思想を発動して彼らを革命闘争へと力強く奮起させる強力な思想的武器をもっている。

反動的搾取階級、支配階級も彼らの思想を流布させようと策動するが、彼らの思想は広範な勤労人民大衆の利益と根本的に相反する反人民的なものであるため、大衆の思想、社会の唯一の思想にはなれない。

ひとえに、人民大衆の自主性をめざしてたたかう革命家のみが、人民大衆に受け入れられる自主的な革命思想をもっており、またそれを実現するためにたたかっているので、人民大衆が自主的な革命思想を身につけるようにして彼らを発動し、思想意識の役割を高める方法ですべてを解決するようになる。

問 39：思想改造活動を優先させるというのは何を意味するか

答：思想改造活動を優先させるというのは、人々の頭のなかに残っている古い思想の残滓を根こそぎにし、自主的な思想意識を身につける活動を優先させるということを意味する。

金正日総書記は次のように述べている。

「思想改造は、人間を真の共産主義的人間に改造する重要な活動です」

革命運動は先進思想を身につけることから始まり、先進思想を身につけた民衆の力によって勝利する。そこで、革命と建設をおこなううえで、先進思想を身につける思想改造活動を立派におこなうことが何よりも重要である。ところが人々の思想を改造する活動は、人々の物質生活条件を改変する活動や文化技術水準を高める活動より、もっと困難かつ複雑で長期性を帯びる。それに思想改造活動が、思想分野における古いものと新しいものとの闘争であるだけに、一つの深刻な革命となる。革命と建設を成功裏に遂行するためには、人々の思想を改造する活動を他のすべての活動に確固と優先させ、精力的に、忍耐強く推し進めなければならない。

思想改造活動を優先させ人々の思想を改造するうえで基本は革命的世界観、革命観を確立することである。

人間は革命的世界観、革命観を確立してこそ、すべての問題を人民大衆の立場に立って分析判断し、人民大衆の利益のためにしっかりとたたかうことができる。また、革命観を確立した人間であってこそ、いかなる逆境のなかでも微動だにせず、人民の自由と解放のためにたたかうことができる。

チュチェの革命観においてもっとも重要なのは領袖にたいする忠実さである。

人民大衆の自主性を実現する革命偉業は、領袖によってのみ立派に開拓され完成される。それゆえ革命に忠実するためには、何よりも領袖の指導に

忠実しなければならない。

革命観を正しく確立するためには、革命思想と革命理論をしっかりと身につけ、党と領袖のために、祖国と人民のためにすべてをささげる限りない献身性、敵にたいする憎悪心、いかなる逆境のなかでも動揺することなく、革命的節操をまもって最後までたたかう不屈の革命精神、前進途上で立ちはだかる隘路と難関を勇敢に克服し、すべてを自力で解決する自力更生の革命精神、革命組織を重んじ、組織規律を自発的に守る強い組織性と規律性の精神を身に付けなければならない。

革命観を確立した透徹の革命家になるためには、革命的学習や革命的組織生活を強化し、革命的実践のなかで鍛錬しなければならない。

問 40：政治活動を優先させることは何を意味するか

答:政治活動を優先させるということは、人民大衆に党の路線と政策を体得させ、彼らの革命的熱意を奮起させることにより、人民大衆自身が高い自覚と積極性をもって革命闘争と建設事業を立派に遂行するようにすることである。すなわち、いかなる活動をするにしても、まず人々の心を動かして彼らが高い熱情と意欲をもって働くようにすることである。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命課題をりっぱに遂行するためには、人びとを教育し奮起させる政治活動をすべての活動に優先させなければなりません」

自然を改造するのも人間であり、社会を変革するのも人間である。そこで革命と建設を成功裏に遂行するためには、常に政治活動を優先させて、人々の自覚と積極性を高めることを確固たる原則とすべきである。

金正日総書記は革命と建設を指導する全期間、政治活動を他のすべての活動に優先させることを原則とし、常に人びとの思想に働きかけて人民大衆を革命と建設へ呼び起こした。

チュチェ 67（1978）年、共和国創立 30 周年を迎えたときのことである。

総書記は 9 月の慶祝行事を通じて、党と領袖のまわりに固く結束した朝鮮人民の不敗の統一団結の威力を全世界に示威する遠大な構想をもって、平壌市民の 100 万人市民パレードを行うようにした。

ところが、これまでそのような大規模の行事をおこなってみたこともなく、それに共和国創立 30 周年をひかえて、平壌市民のほとんどが工場や企業所、建設場で昼夜一生懸命働いている状況のもとで、それほど大勢の人を動員するということは決して容易なことではなかった。行事を直接担当している幹部たちの心中は重く、行事の準備はなかなか捗らなかった。

実態を了解した総書記は幹部たちに、いまのような膨大な規模の行事を行政実務的に解決しようとしてはいけない、党組織を発動して政治活動をお

こなうべきであるとねんごろに言い聞かせた。

総書記はこの日、党組織が政治活動をおこなって党員と勤労者の思想を呼び起こすならば、各人が2倍3倍の仕事をするなかでも大勢の人が動員されるだろうと、パレードと関連して詳細に指導した。

総書記から言われて平壌市党組織では、市民のなかで共和国創建記念日（9月9日）慶祝行事を立派に保障するための組織政治活動を力強く展開した。そのうち市民は職場の仕事をしながらも行事準備活動に一人のように参加するようになった。

共和国創立30周年慶祝平壌市民の100万名市民パレードは、高い水準で立派におこなわれた。これは行事準備に政治活動を確固と優先させた結果である。

政治活動を立派におこなううえで重要なのは、政治活動を優先させながら行政実務活動、技術経済活動を正しく結合し、政治道徳的刺激を基本にしながらそこに物質的刺激を正しく配合していくことである。

政治活動を立派におこなううえで正しい方法に依拠するのがまた重要である。政治活動は説伏と教育の方法でおこなうべきであり、多様な形式と方法で斬新におこなうべきである。そして政治活動を人民大衆自身の活動になるようにし、革命実践と密接に結びつけておこなうべきである。

問 41：チュチェの革命観とは

答:チュチェの革命観とは一言で言って、革命の主人として備えるべき革命に対する主体的な観点と立場である。言い換えれば、チュチェの革命観は人民大衆を中心にすえて革命に対応する観点と立場であり、人民大衆のために断固とたたかう革命精神である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェの革命観は、人民大衆を中心にすえて革命に対応する観点と立場であり、人民大衆のために断固とたたかう革命精神です」

チュチェの革命観を確立するうえで革命の本質と根本的目的、その実現方途を正しく認識し、革命の対象についてよく知ることも必要である。しかし、チュチェの革命観を確立するうえで、革命の主体に対する正しい観点と立場を持つことが最も重要である。それは、革命の主体を離れた革命運動とはありえないし、その勝利的前進についても考えられないためである。

革命の主体は領袖、党、大衆の統一体である。

それがゆえ、チュチェの革命観を確立するうえで領袖観、組織観，大衆観を正しく確立することが重要である。そして、革命の主体は領袖、党、大衆の実務的な結合体ではなく、道徳的・道義的に結合された一つの社会的・政治的生命体であるがゆえ、チュチェの革命観は道徳観によって裏付けられるべきである。

結局、チュチェの革命観は領袖、党、大衆が一つに結合されて革命の主体をなしていることにより、領袖観、組織観、大衆観、道徳観の全一的な体系となる。

問 42：革命の根本原理は何か

答:革命の根本原理は一言で言って、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるということである。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるという革命の根本原理を示し、それにもとづいて、われわれの時代の求める新たな革命理論の提示を可能にしました」

革命と建設の主人は、人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるという革命の原理は、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の哲学的原理を具現した原理であり、それはチュチェ思想の本質を表している。

革命の根本的原理はまず、革命と建設の主人は人民大衆であるということである。これは革命と建設において人民大衆が占める地位を明らかにしたことである。革命と建設の主人は人民大衆であるということは、革命と建設が人民大衆自らの事業であり、人民大衆自らが遂行すべき事業であるということである。

革命と建設の根本的目的は、人民大衆があらゆる束縛から脱し、自らを解放して自主的で、創造的な生活を享受することにある。従って、人民大衆は革命と建設に切実な利害関係をもち、その主人となる。そして、革命と建設は人民大衆のための事業であるため、人民大衆自らが担って遂行すべき事業となる。

人民大衆は自らの闘争によってのみ、あらゆる束縛と従属から脱し、自己の運命の主人として自主的な生活を営むことができる。

革命の根本的原理は次に、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるということである。これは革命と建設において人民大衆が果たす役割を解明したことである。革命と建設において決定的役割を果たすことは客観的条件

ではなく、主体である人民大衆である。

人民大衆は革命と建設に切実な利害関係をもつばかりでなく、それをおし進める革命的能力、創造的能力をもっている。世界には人民大衆の革命的能力、創造的能力よりさらに有力な力はない。人民大衆を正しく組織し動員すればいかに厳しくて複雑な条件でも難関と試練を克服し、革命と建設を勝利のうちに前進させることができる。

このように、革命と建設の主人は、人民大衆であり、革命と建設をおし進める力も人民大衆にあるということは、ほかならぬ革命の根本的原理であり、チュチェの革命理論は、それに基づいて展開され、体系化されている。

問 43：革命とは何か

答:革命とは一言でいって、人民大衆の自主性を擁護し、実現するための組織的な闘争である。

金日成主席は次のように述べている。

「革命は本質において、人民大衆の自主性を擁護し実現するための組織的な闘争です」

革命はまず、人民大衆の自主性を擁護し、実現するための闘争である。

あらゆる形態の従属と束縛から脱し、自主的に生きようとすることは人民大衆の本性的要求である。人民大衆は自主性を擁護し、実現することを目的として革命闘争を展開する。すべての革命運動はみな民族的、また階級的な従属、あらゆる束縛から脱し、人民大衆の自主性を擁護し、実現するための闘争である。従って、革命はその根本的目的において人民大衆の自主性を擁護し、実現するための闘争となる。

革命はまた、人民大衆の組織的な闘争である。

革命が根本的目的において人民大衆の自主性を擁護し、実現するための闘争であるといって、自主性をめざす人民大衆のすべての闘争がみな革命ではない。自主性をめざす人民大衆の闘争が散漫かつ非組織的に行なわれる場合には、革命にならない。自主性を擁護し、実現する人民大衆の闘争は組織的な闘争になるとき、はじめて革命となる。

革命は古い社会制度を一掃し、新しい社会制度を樹立することと、思想、技術、文化において古いものを新しいものに変えることを基本内容としている。

革命の基本内容の一つは、古い社会制度を新しい社会制度に変えることである。

社会制度は人々の地位と役割を規制する社会的関係の強固な体系である。古い搾取社会制度は人民大衆の自主性を蹂躙し、極少数の支配階級、搾取階級に特権的な地位を保障する反人民的で、反動的な社会制度である。従

って、古い社会制度を一掃し、先進的な社会制度を樹立してのみ、勤労人民大衆は社会の真の主人となり、自主的で創造的な生活を営むことができる。

古い社会制度を先進的な社会制度に変えるうえで基本は、政治制度と経済制度を変革することである。

革命の基本内容のもう一つは、思想、技術、文化に残っている古い社会の遺物を一掃し、勤労人民大衆の自主性を完全に実現することである。

人民大衆の自主性実現を防ぐことは古い社会制度だけではない。

人民大衆の社会的・政治的自主性が実現された社会、社会主義社会では古い社会から受け継いだ思想、技術、文化の立ち遅れが人民大衆の自主性実現を妨げる主な要因となる。新しい社会制度が人民大衆に社会の主人としての地位を保障するといって、古い社会から受け継いだ思想、技術、文化の立ち遅れが残っていると人民大衆が自らの自主性を完全に実現することができない。思想、技術、文化革命を力強くおし進め、古い社会から受け継いだ思想、技術、文化の立ち遅れを克服してこそ、人民大衆をあらゆる従属と束縛から解放することができる。実に、思想、技術、文化分野において古いものを新しいものに変えることが革命となる主な理由がここにある。

問 44：革命はどのように起こるか

答:革命は人民大衆の自主性に対する束縛がある時、また人民大衆が高い自主意識をもち、政治的に準備された時に起こる。

革命は一般的に人民大衆の自主性に対する束縛と蹂躙があるときに起こる。これは革命が起こる客観的要因である。

いかなる束縛と従属に反対し世界の主人、自己の運命の主人として自主的に生き、発展しようとすることは人民大衆の本性的要求である。

ところが、自主的に生き、発展しようとする人民大衆の指向と要求は、さまざまな要因によって蹂躙され、束縛される。特に、古くて反動的な搾取社会において人民大衆は搾取と抑圧の対象となり、自主性が蹂躙されるようになる。そして、搾取階級と搾取制度が一掃され、新しい制度、社会主義制度が樹立された後にも、思想、技術、文化分野には古い社会の遺物が残り、それは人民大衆の自主性を束縛する。

革命はまさに、人民大衆が自主的に生き、発展することを求めるが、それが蹂躙され、束縛されるため起こるのである。

革命は、直接的には人民大衆の高い自主意識と政治的準備によって起こる。

金日成主席は次のように述べている。

「社会で革命が起こる直接の原因は、人民大衆の高い自主意識と政治的準備にあります」

革命は人民大衆の自主性が蹂躙され、束縛されるといって、いつでもおのずと起こるのではない。自主性に対する束縛と蹂躙は革命が起こる客観的条件とはなるが、その直接的原因とはならない。

革命が起こるためにはまず、人民大衆が高い自主意識で武装すべきである。

人民大衆が思想的に覚醒しなかった時には搾取され、抑圧されても仕方ないこととして思いながら革命を行なうことを考えなかった。革命は人民大衆が自らの階級的境遇と利害関係を自覚し、自主的な思想意識でしっかり武

装した時にはじめて起こるようになる。

革命が起こるためにはまた､人民大衆が政治的に準備されるべきである。

人民大衆が政治的に準備されたことは､かれらが一つの政治的勢力に結束されたことである。革命は決して、何人の散発的闘争ではなく、大衆の組織的闘争である。反革命勢力との熾烈な階級闘争を伴い、自然と社会と人間自らを根本的に変革する革命が起こるためには､人民大衆が一つの政治的勢力に団結すべきである。党と領袖を中心として組織的に結束されて革命の主体をなしている人民大衆だけが革命を起こる有力な勢力となり得る。

問 45：革命的領袖観とは何か

答:革命的領袖観とは革命的闘争において領袖が占める地位と役割に対する最も正しい見解と観点であり､領袖に対して真心をこめていただく立場と姿勢であります

革命的領袖観はチュチェの革命観において中核をなす。

革命的領袖観はまず､革命闘争において領袖が占める地位と役割に対する最も正しい見解と観点である。

領袖はまず、革命闘争において絶対的地位を占める。

領袖が革命闘争において占める絶対的地位は領袖が社会的･政治的生命体の中心となることに関わる。

社会的･政治的集団の生命の中心は、この集団の最高脳髄である領袖である。領袖は社会的、政治的集団の最高脳髄であるがゆえ、人民大衆を一つの社会的・政治的生命体に組織的・思想的に、道徳的・信義的に結束させる中心となる。

領袖はまた､人民大衆の運命を開拓するための革命闘争において決定的役割を果たす。

領袖は革命の指導思想を創始し、発展豊富化させ、革命の前途を明らかにし、人民大衆を意識化、組織化して強力な革命の主体を作り上げる。そして､革命と建設の各段階において科学的な戦略戦術的指導で革命偉業を勝利へ導く。

領袖が革命闘争において社会的･政治的生命体の中心として絶対的な地位を占め、決定的役割を果たすため、領袖を個人とみなしてはならない。個人はいかに優れたと言っても人民大衆の一構成員として限られた地位を占め、限られた役割しか果たさない。しかし、領袖は人民大衆の意思と要求を体現し、社会的・政治的生命体の中心として社会集団全般を代表し、革命闘争において決定的役割を果たす。

革命的領袖観は次に、領袖を真心をこめていただく立場と姿勢である。

領袖に対する最も正しい見解と観点から領袖を真心をこめていただく立場と姿勢が生まれる。領袖を心から高く奉じ、領袖の権威を絶対化し、領袖の思想と意図を信条化し、それを無条件徹底的に貫くことは、革命家のしかるべき立場であり、姿勢である。

領袖を心から高く奉じ、領袖の権威を絶対化し、領袖の思想と意図を信条化し、それをあくまで貫徹するのは領袖を心から高くいただく立場と姿勢の本質的内容である。

領袖を心から高く仰ぎ奉じるということは、偉大な領袖をいただくことを最高の栄誉、最大の幸福として考え、領袖に自己の運命を全的に依託し、領袖の指導を受ける限り世界でやり遂げないことがないという鉄石のような信念を持ち、自らのすべてをささげてたたかうことである。

領袖の権威を絶対化するということは、領袖だけには誰も知らないという確固たる立場を持ち、いかなる逆行の中でも領袖を政治的・思想的に、命を賭してしっかり擁護し、領袖の権威を高めるためにすべてをささげ、領袖の権威に関する問題においてもいささかの譲歩を許さないことである。

領袖の思想と意図を信条化するということは、領袖の思想と意図をもっとも正しいもので受け入れ、活動と生活において唯一の指導的指針とし、領袖の思想をしっかり擁護固守し、その通りに思考し、行動することである。

領袖の思想と意図を貫くうえで無条件性の原則を守ることは、領袖の思想と意図をすなわち法として、至上の命令として受け入れ、領袖の思想と意図を貫く前には死ぬ権利もないという意思をもち、いささかの理由と口実もなく、限りない献身さと犠牲性を発揮し、それを徹底的に貫くことである。

これは領袖に対する忠実性、領袖を高くいただく立場と姿勢の基本要求、基本尺度である。

問 46：革命的組織観とはなにか

答:革命的組織観は領袖が創建し指導する革命的組織にたいする観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「組織観は党組織に限らず、党の指導のもとに領袖と大衆を結びつけるすべての社会的・政治的組織にたいする観点と立場を包括しています」

革命的組織観は党組織にたいする観点と立場、党の指導のもとに領袖と大衆を結びつけるすべての社会政治組織にたいする観点と立場を包括する。

革命的組織観は何よりも革命組織を自己の政治的生命の母体と見る観点である。

革命をおこなうためには団結すべきであり、団結するためには組織が必要である。ところが組織の貴さは団結の必要性とのみ関連するものではない。革命組織は人民大衆をなすすべての構成員を組織的に結束して政治組織の一構成員にし、領袖との血縁的連携を結びつける。組織を離れては誰もが領袖と血縁的に結び付けないし領袖からの貴い社会政治的生命を担うことができない。

革命組織を社会政治的生命の母体にもっとも尊ぶここに革命的組織観の真髄がある。

革命的組織観は次に革命組織を重んじ、革命組織に徹底的に依拠して活動し生活する立場である。

革命組織が人々の社会政治的生命の母体であるだけに革命家は革命組織を重んじ、それに徹底的に依拠して活動し生活しなければならない。

子息が自分を産み育んだ母を愛し尊敬するように革命家が自分の政治組織を愛し大事にするのは当然なことである。革命家はいつどこでも自発的な組織観念をもち、組織に徹底的に依拠して組織の指導と統制のもとで活動し生活することを鉄則にすべきである。

革命的組織観は結局革命組織をもっとも尊び尊大する観点と立場として革命家が当然担うべき革命組織にたいする観点と立場である。

問 47：革命的大衆観とはなにか

答:革命的大衆観とは人民大衆を革命の主人とみなし人民大衆に奉仕し人民大衆の限りない力を信じその力に依拠して革命をおこなう観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命的大衆観は、人民大衆を革命の主人とし、人民大衆に奉仕し、人民大衆の底知れぬ力を信じ、それに依拠して革命を進める観点と立場です」

革命的大衆観は何よりも人民大衆を革命の主人とみなし人民大衆に奉仕する観点と立場である。

人民大衆を革命の主人とみなすことは革命を求めるのも人民大衆であり、革命と建設を直接担当し遂行するのも人民大衆であるという観点をもつことを意味し、人民大衆のために献身的に奉仕するということは人民大衆の要求と利益を重んじ擁護してその実現のためにすべてをささげてたたかうことを意味する。

革命の主人はどこまでも人民大衆であり、革命は人民大衆が自己の自主性を実現するために自力でおこなう闘争である。人民大衆はひたすら自己の闘争を通じてのみ新しい社会を建設し自主的で創造的な生活を営むことができる。それは革命の主人、革命の直接的な担当者がほかならぬ人民大衆であることを意味する。

人民大衆が革命の主人であるという観点から人民大衆のために献身的に奉仕する立場が生まれる。

人民大衆が革命の主人であるだけに人民大衆の要求と利益を尊重しそれを徹底的に擁護し実現するために献身的にたたかうことは革命家の当然の姿勢となる。

人民大衆を革命の主人とみなし、人民大衆のために献身的に奉仕する観点と立場は大衆を見下ろし、号令し自分を大衆の上に君臨した特殊の存在の

ように思い、権勢と官僚主義に走ることとは根本的に対立する。

革命的大衆観は次に人民大衆の力を信じ、その力に依拠して革命をおこなう観点と立場である。

人民大衆の力を信じるということは人民大衆をこの世でもっとも聡明で英知ある威力な存在とみなすことを意味し、人民大衆の力に依拠して革命をおこなうということは人民大衆を組織動員して革命と建設におけるすべての問題を解決することを意味する。

人民大衆はこの世でもっとも強力な存在である。

個人はいくら聡明で有能であっても人類が歴史的に蓄積しておいた知恵と力の極制限された部分のみを体現しているだけである。ただ人民大衆のみ人類が成し遂げたすべての財貨を全面的に体現しており、自然と社会、人間自身を改造して自己の運命を自力で開拓できる。

それゆえ、革命をおこなうためには人民大衆の力を信じ、それに依拠する道しかないし、そのためには大衆を意識化、組織化し呼び起こすための活動をりっぱにおこなうべきである。

人民大衆の力を信じ、それに依拠して革命をおこなう観点と立場は、大衆の力を信じないことから生まれる事大主義と悲観主義、敗北主義とは根本的に対立する。

問 48：革命的道徳観とはなにか

答:革命的道徳観は革命的良心にもとづいた人々の行動規範にたいする観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命的道徳観は、革命的良心にもとづいた、人びとの行動規範にたいする観点と立場です」

真の社会的人間は革命的良心の持ち主である。

革命的良心は個人の生命より社会的政治的集団の生命をより大事にし、個人の利益より党と革命、祖国と人民の利益を大事にし、党と革命、祖国と人民の前に担った道徳的義務を忠実に守ろうとする美しい心であり、高い責任感である。

まさにこのような革命的良心にもとづいた社会的行動規範、革命的道徳にたいする観点と立場が革命的道徳観である。

革命的道徳観は何よりも集団の利益を個人の利益より重んじ集団のために献身的に奉仕することを当然の道義とみなす観点と立場である。

個人は集団を離れて生きられないし、したがって集団の利益は個人の利益よりもっと大事である。それゆえ集団の利益を個人の利益より重んじ、集団のために献身的に奉仕することは個別的な人々が集団との関係で守るべき道徳となる。

集団と個人の道徳関係で重要なのはまず、領袖、党、大衆にたいする忠実さを当然の道義とし徹底的に具現することを意味する。集団と個人の関係で基本は領袖、党、大衆と個人の関係である。

人民大衆が集団であるということはいうまでもなく社会政治的集団の中心である領袖とその生命活動で中枢的機能を遂行する党と集団を代表する。それゆえ、革命的道徳は何よりも領袖、党、大衆にたいする忠実さに具現されなければならない。

集団と個人の道徳関係で重要なのはまた社会的財貨と祖国を愛し祖国のために献身することを道徳的義務として守ることを意味する。

革命的道徳観は次にすべての人々が集団のなかで平等な資格をもち、同志的に互いに愛し助けることを道徳的義務とする観点と立場である。

集団と個人との関係と異なり、個人と個人の関係では一個人の利益が他の個人の利益よりもっと大事であるという問題は立たない。個人と個人間の関係は集団のなかで平等な自主的関係である。運命を共にする社会政治的集団のなかで革命家間の関係は完全に平等な自主的関係であると同時に互いに献身的に助け合う同志的愛の関係である。

個人と個人との関係で重要なのは同志間に革命的同志愛と信義を重んじよく守ることである。

革命同志を真に愛し真心を込めて待遇する人のみ、党と革命にも忠実である。それで日常の生活で同志間に革命的信義を守ることができるか、できないかということを把握するのは党と革命にたいする忠実さを正しく見て評価するうえで最初の公定となる。

個人と個人の道徳関係で家族のメンバー間の肉親的愛を重んじ、それが真の同志的愛とならしめるのがまた重要である。

家族関係は血縁的関係にもとづいているということから他の社会的関係と区別される特徴をもっている。しかし、家族関係も社会的関係であるだけに家族のメンバー間にも社会に共通的に作用する道徳的信義が作用する。家庭生活で夫婦間、父母と子息間、兄弟姉妹間の肉親的な愛を重んじながらもそれが真の同志的愛になるようにすべきである。

個人と個人の道徳関係において、社会共同生活で礼儀を守り、人々の間で互いに見守ることがまた重要である。

人々が礼儀を守り、老人と子供、乳母と体の不自由な人々を暖かく見守るのは互いに助け導く生死苦楽を共にする社会主義社会の本質的特性から提起される革命家の気高い道徳的品性である。

問 49：チュチェの人生観とは

答:チュチェの人生観とは人間の自主性を実現するための闘争において一生をどう生きるべきかという観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間はただ一日を生きても政治的生命をもって誉れ高く生きるべきであって、一身上のことを気づかって一生を無為に過ごしてはなりません」

人生観とは人間の生に対する見解、観点と立場である。言い換えればそれは、どんな生きがいが幸せな生であり、その生を営む道は何かに対する見解と観点と立場である。

人間の人生行路は、どんな人生観を持っているかによって異なる。正しい人生観を持つ人間は一生を後悔せず、生き甲斐よく生きるが、そうでない人間はいくら長く生きても人間らしく生きることができない。

人間が一生を生き甲斐よく生きるためには、チュチェの人生観を持つべきである。

チュチェの人生観とは、人間が自主性を実現するための闘争において一生を生き甲斐よく生きるようにする集団主義的人生観であり、革命的領袖観を中核とする人生観である。

チュチェの人生観はまず、集団主義的人生観である。

チュチェの人生観は、社会的集団の運命と個人の運命を結合させる人民大衆の自主性を実現するための共同偉業に命を捧げてたたかう生をもっとも真実の生に対する集団主義的人生観である。

チュチェの人生観は個人主義的人生観と根本的に区別される。

人生観は大きく個人主義的人生観と集団主義的人生観に区別される。個人主義的人生観は個人の安逸と享楽を最高の目的としてみなす人生観であり、集団主義的人生観は自己の運命を集団の運命と結び付け、集団のための闘争において真実の生き甲斐と幸せを求める人生観である。

人間は孤立的ではなく、社会と集団の一構成員として生きるがゆえ、生活の価値は社会と集団にいかに寄与するかによって評価される。万一、社会と集団とかけ離れて個人だけのために生きる人間の生活は、価値もなくて、その一生はこの世に生まれなかったことと同じく、無意味なことになる。

チュチェの人生観は個人だけのために生きる生は、残ることがなくて、未来もないし、真実の生は社会的・政治的生命を持ち、社会と集団のために献身しながら生きる生である。

チュチェの人生観はまた、革命的領袖観を中核とする人生観である。

チュチェの人生観が革命的領袖観を中核とする人生観であることは、それが社会的・政治的生命体において領袖が占める地位と役割に対する正しい見解と観点、領袖を真実に高く仰ぐ立場と態度に基づき、展開され、体系化された人生観であることである。

チュチェの人生観は領袖を高く仰ぎ、領袖の周りに結束し、領袖の思想と指導を忠実に奉じるとき、最も尊い社会的・政治的生命を持ち、輝かせ、生き甲斐よく幸せな生活を享受できることを明らかにした。そうして、人々にとって領袖に限りなく忠実し、生き甲斐のある生を求めるようにする。

問 50：人間のもっとも貴重な生命は何か

答:社会的存在である人間にとってもっとも貴重な生命は社会的・政治的生命である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間にとってもっとも貴いものは生命です。生命のなかでも肉体的生命より社会的、政治的生命のほうが大切であり、個人の生命より社会的集団の生命のほうが大切です」

人間は肉体的生命とともに社会的・政治的生命を持つ。肉体的生命が生物有機体としての人間の生命であれば、社会的、政治的生命は社会的存在としての人間の生命である。

革命家が自己の社会的、政治的生命を汚さないためには、一つしかない肉体的生命までも惜しみなくささげることは、まさに社会的・政治的生命が人間にとって世界と自己の運命の主人として尊厳あるように生きるようにするもっとも貴重な生命であるためである。

人間にとって社会的・政治的生命がもっとも貴重な生命になることはまず、社会的・政治的生命が人間にとって世界と自己の運命の主人として人間らしく生きるようにする生命であるためである。

社会的存在である人間は、一つの社会的・政治的生命体に結びづいて社会的・政治的生命を持つときのみ、社会の主人となり、自己の運命を自主的に切り開くことができる。

社会も政治も知らずに無為徒食しながら生きるなら、そのような人間は人間らしく生きるといえない。もちろん人間にとって肉体的生命も貴重である。しかし肉体的生命の要求のみを充足させながら生きる人間は、たとえ命はあっても社会的・政治的には死んだことと同様である。

人間にとって社会的・政治的生命がもっとも貴重な生命になるのは次に、社会的・政治的生命が社会的集団とともに永生する生命であるからである。

人間の肉体的生命には限界がある。しかし社会と集団が付与し、社会と集団のための闘争のなかで輝く社会的・政治的生命は、彼が属した社会的・政治的集団とともに永生する。社会的・政治的生命が永生するというのは社会と集団のために献身した人々の名前と魂が党と領袖、祖国と人民の記憶の中に永遠に残っており、代を次いで輝いていることから現れる。永生しようとする人間の本性的要求は、人間が社会的・政治的生命を持ちそれを輝かすときにのみ実現されることができる。